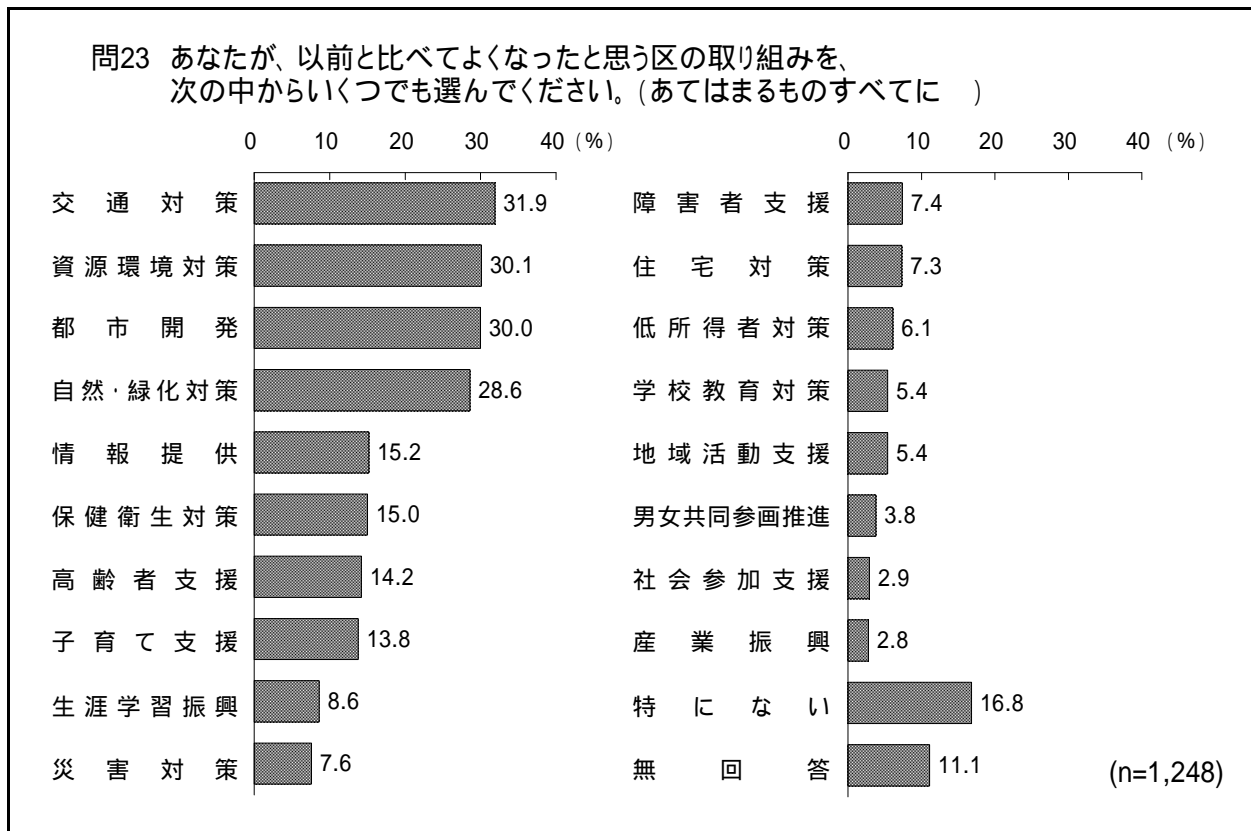


4 区 政

(1) 以前と比べてよくなったと思う区の実施策

「交通対策」、「資源環境対策」、「都市開発」が30%以上



区の実施策	内 容	区の実施策	内 容
交通対策	道路や交通網の整備、交通安全対策など	災害対策	防災活動の充実、都市の不燃化など
資源環境対策	省エネルギー、ごみ処理、リサイクルなど	障害者支援	在宅生活や介護の支援、施設の整備、就労支援など
都市開発	開発・再開発、美しい街並みや景観づくりなど	住宅対策	良質な住宅の供給支援など
自然・緑化対策	公園や緑地、河川の整備など	低所得者対策	生活の援助や自立支援など
情報提供	広報やホームページなどによる区政情報の提供など	学校教育対策	教育内容の充実、施設の改修など
保健衛生対策	健康づくり、健康診査、生活衛生など	地域活動支援	町会・自治会活動の支援、青少年の健全育成など
高齢者支援	在宅生活や介護の支援、施設の整備、生きがい対策など	男女共同	男女が平等に社会参加できるしくみづくりなど
子育て支援	保育サービスや子育て相談の充実など	社会参加支援	NPOやボランティアの育成や支援など
生涯学習振興	文化・スポーツ活動の支援、施設の充実など	産業振興	商工業の支援、企業起こしの支援、消費者対策など

以前と比べてよくなったと思う区の実施策について聞いてみると、「交通対策」(31.9%)が最も高く、次いで「資源環境対策」(30.1%)、「都市開発」(30.0%)、「自然・緑化対策」(28.6%)、「情報提供」(15.2%)の順となっている。

地域ブロック別にみると、表4 - 1 - 1のとおりである。

各ブロックの第1位をみると、最も多いのは「交通対策」であり、6ブロックとなっている。次いで「自然・緑化対策」、「資源環境対策」がそれぞれ3ブロックで並んでいる。

表4 - 1 - 1 以前と比べてよくなったと思う区の取り組み 上位5項目（地域ブロック別）（%）

	n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体	1,248	交 通 対 策 (31.9)	資 源 環 境 対 策 (30.1)	都 市 開 発 (30.0)	自 然 ・ 緑 化 対 策 (28.6)	情 報 提 供 (15.2)
第1ブロック	132	都 市 開 発 (32.6)	資 源 環 境 対 策 (31.8)	交 通 対 策 (24.2)	自 然 ・ 緑 化 対 策 (20.5)	情 報 提 供 (18.2)
第2ブロック	80	交 通 対 策 (43.8)	自 然 ・ 緑 化 対 策 (33.8)	都 市 開 発 (30.0)	資 源 環 境 対 策 (28.8)	情 報 提 供 (11.3)
第3ブロック	91	交 通 対 策 (33.0)	都 市 開 発 / 資 源 環 境 対 策 (29.7)		自 然 ・ 緑 化 対 策 (26.4)	高 齢 者 支 援 (17.6)
第4ブロック	105	都 市 開 発 (30.5)	交 通 対 策 / 自 然 ・ 緑 化 対 策 (29.5)		資 源 環 境 対 策 (26.7)	高 齢 者 支 援 (20.0)
第5ブロック	118	自 然 ・ 緑 化 対 策 (29.7)	都 市 開 発 (25.4)	資 源 環 境 対 策 (23.7)	交 通 対 策 (22.9)	保 健 衛 生 対 策 (19.5)
第6ブロック	132	自 然 ・ 緑 化 対 策 (39.4)	資 源 環 境 対 策 (32.6)	交 通 対 策 (29.5)	都 市 開 発 (28.0)	情 報 提 供 (17.4)
第7ブロック	92	資 源 環 境 対 策 (26.1)	交 通 対 策 (22.8)	都 市 開 発 (21.7)	自 然 ・ 緑 化 対 策 (18.5)	子 育 て 支 援 (17.4)
第8ブロック	94	交 通 対 策 / 資 源 環 境 対 策 (36.2)		都 市 開 発 (35.1)	自 然 ・ 緑 化 対 策 (22.3)	情 報 提 供 (21.3)
第9ブロック	53	交 通 対 策 (34.0)	自 然 ・ 緑 化 対 策 (30.2)	資 源 環 境 対 策 (24.5)	都 市 開 発 (22.6)	高 齢 者 支 援 (15.1)
第10ブロック	115	資 源 環 境 対 策 (33.9)	都 市 開 発 (31.3)	交 通 対 策 (24.3)	自 然 ・ 緑 化 対 策 (20.0)	保 健 衛 生 対 策 (18.3)
第11ブロック	89	交 通 対 策 (38.2)	都 市 開 発 (36.0)	資 源 環 境 対 策 (30.3)	自 然 ・ 緑 化 対 策 (22.5)	高 齢 者 支 援 (21.3)
第12ブロック	61	交 通 対 策 (54.1)	自 然 ・ 緑 化 対 策 (44.3)	資 源 環 境 対 策 (34.4)	都 市 開 発 (29.5)	高 齢 者 支 援 (26.2)
第13ブロック	86	自 然 ・ 緑 化 対 策 (43.0)	交 通 対 策 (41.9)	都 市 開 発 (34.9)	資 源 環 境 対 策 (31.4)	高 齢 者 支 援 (12.8)

ブロック区分



性・年代別にみると、表4 - 1 - 2のとおりである。

全体で第1位の「交通対策」は男性30代、50代、60代、70歳以上、女性40代で1位にあげられており、全体で第2位の「資源環境対策」は男性70歳以上、女性50代、60代、70歳以上で1位にあげられている。

表4 - 1 - 2 以前と比べてよくなったと思う区の取り組み 上位5項目（性・年代別）

(%)

	n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体	1,248	交 通 対 策 (31.9)	資 源 環 境 対 策 (30.1)	都 市 開 発 (30.0)	自 然 ・ 緑 化 対 策 (28.6)	情 報 提 供 (15.2)
男性20代	31	都 市 開 発 (29.0)	交 通 対 策 / 自 然 ・ 緑 化 対 策 (22.6)		子 育 て 支 援 / 資 源 環 境 対 策 / 情 報 提 供 (9.7)	
30代	82	都 市 開 発 / 交 通 対 策 (25.6)		自 然 ・ 緑 化 対 策 (22.0)	子 育 て 支 援 (15.9)	資 源 環 境 対 策 (13.4)
40代	94	自 然 ・ 緑 化 対 策 (34.0)	都 市 開 発 (27.7)	交 通 対 策 (26.6)	資 源 環 境 対 策 (19.1)	情 報 提 供 (13.8)
50代	81	交 通 対 策 (35.8)	都 市 開 発 (32.1)	資 源 環 境 対 策 (29.6)	情 報 提 供 (25.9)	自 然 ・ 緑 化 対 策 (24.7)
60代	116	交 通 対 策 (37.9)	資 源 環 境 対 策 (36.2)	自 然 ・ 緑 化 対 策 (30.2)	都 市 開 発 (26.7)	高 齢 者 支 援 (20.7)
70歳以上	98	交 通 対 策 / 資 源 環 境 対 策 (40.8)		自 然 ・ 緑 化 対 策 (37.8)	保 健 衛 生 対 策 (34.7)	高 齢 者 支 援 (33.7)
女性20代	75	都 市 開 発 (36.0)	交 通 対 策 (34.7)	自 然 ・ 緑 化 対 策 (25.3)	資 源 環 境 対 策 (24.0)	子 育 て 支 援 (12.0)
30代	143	都 市 開 発 (30.8)	資 源 環 境 対 策 (24.5)	交 通 対 策 (23.1)	自 然 ・ 緑 化 対 策 (21.0)	子 育 て 支 援 (15.4)
40代	114	交 通 対 策 (36.0)	都 市 開 発 / 資 源 環 境 対 策 (28.9)		自 然 ・ 緑 化 対 策 (22.8)	子 育 て 支 援 (21.9)
50代	119	資 源 環 境 対 策 (35.3)	都 市 開 発 (33.6)	自 然 ・ 緑 化 対 策 (31.1)	交 通 対 策 (27.7)	子 育 て 支 援 (16.0)
60代	144	資 源 環 境 対 策 (36.1)	都 市 開 発 (34.7)	自 然 ・ 緑 化 対 策 (33.3)	交 通 対 策 (31.3)	保 健 衛 生 対 策 (29.2)
70歳以上	132	資 源 環 境 対 策 (39.4)	交 通 対 策 (34.8)	自 然 ・ 緑 化 対 策 (33.3)	高 齢 者 支 援 (28.8)	都 市 開 発 (25.0)

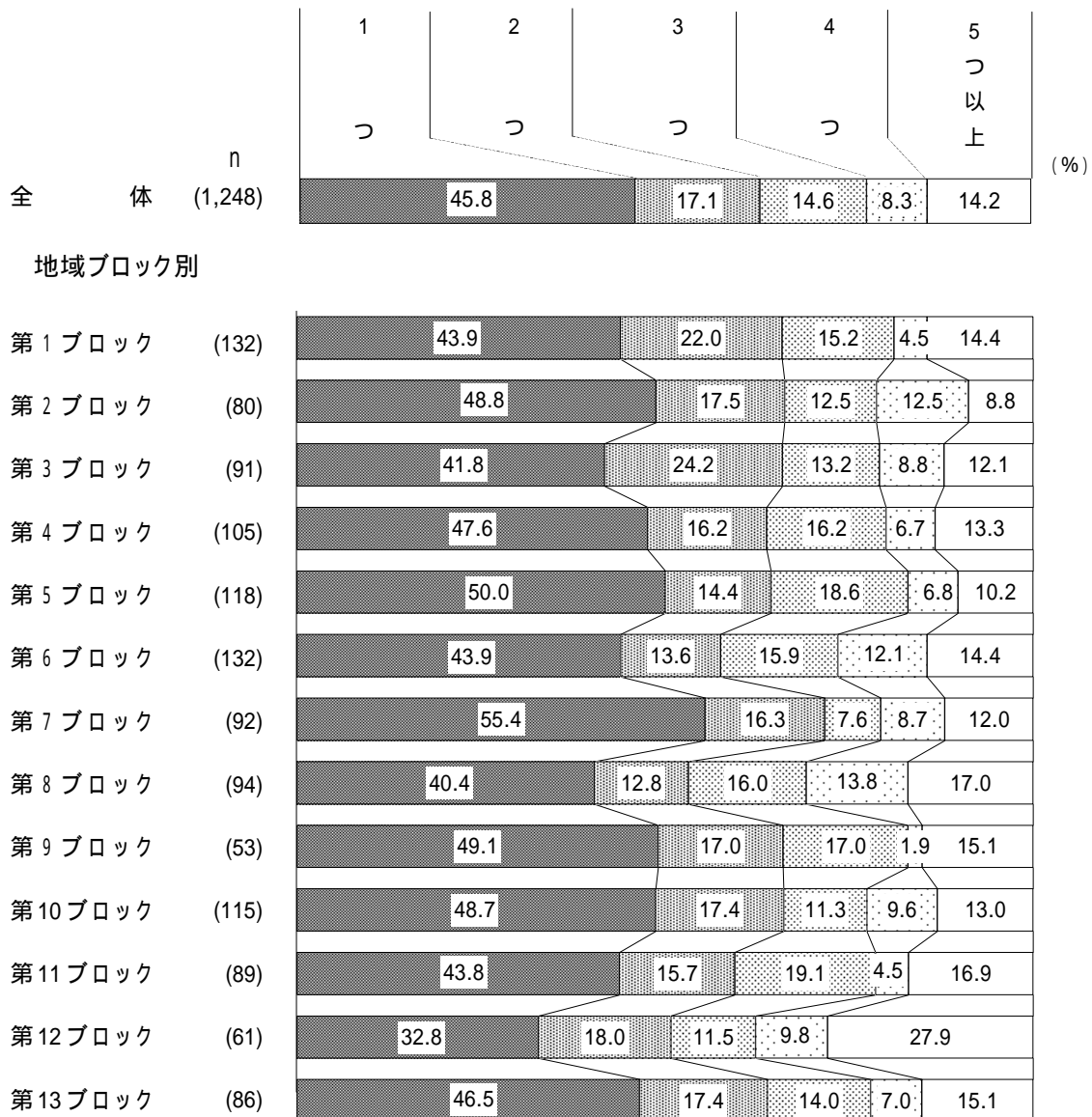
表4 - 1 - 3 以前と比べてよくなったと思う区の取り組み 上位5項目の推移

区の取り組み	平成20年の上位		平成19年の上位		平成20年と 平成19年の差
	順位	%	順位	%	
交 通 対 策	第1位	31.9	第2位	26.6	+5.3
資 源 環 境 対 策	第2位	30.1	第4位	21.2	+8.9
都 市 開 発	第3位	30.0	第1位	26.8	+3.2
自 然 ・ 緑 化 対 策	第4位	28.6	第3位	24.5	+4.1
情 報 提 供	第5位	15.2	第7位	12.1	+3.1

以前と比べてよくなったと思う区の取り組みは平成19年と比べると、上位4項目は変わらないが、4項目全てで順位が入れ替わっている。特に「資源環境対策」で8.9ポイント、「交通対策」で5.3ポイントと上昇幅が大きくなっている。

以前と比べてよくなったと思う区の取り組みとして選んだ項目の数を全体及び地域ブロック別にみると、図4 - 1 - 4のとおりである。全体では1つが最も多く45.8%にのぼり、次いで2つが17.1%と続いている。地域ブロック別では、1つだけ選んだ人は第7ブロックが55.4%と最も高く、5つ以上選んだ人は第12ブロックが27.9%と最も高い。

図 4 - 1 - 4 区の取り組みがよくなったと思う項目の数 (地域ブロック別)

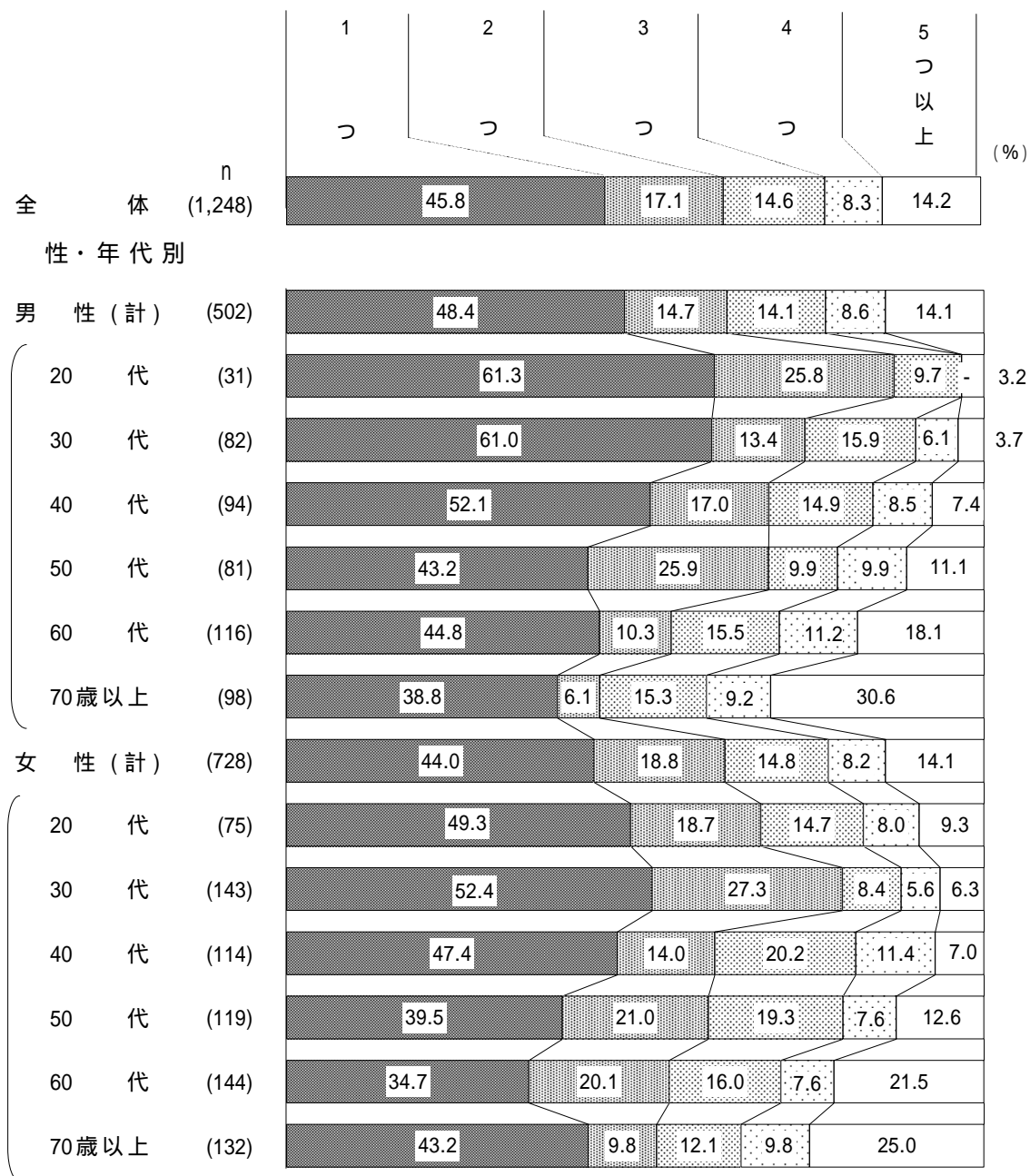


ブロック区分



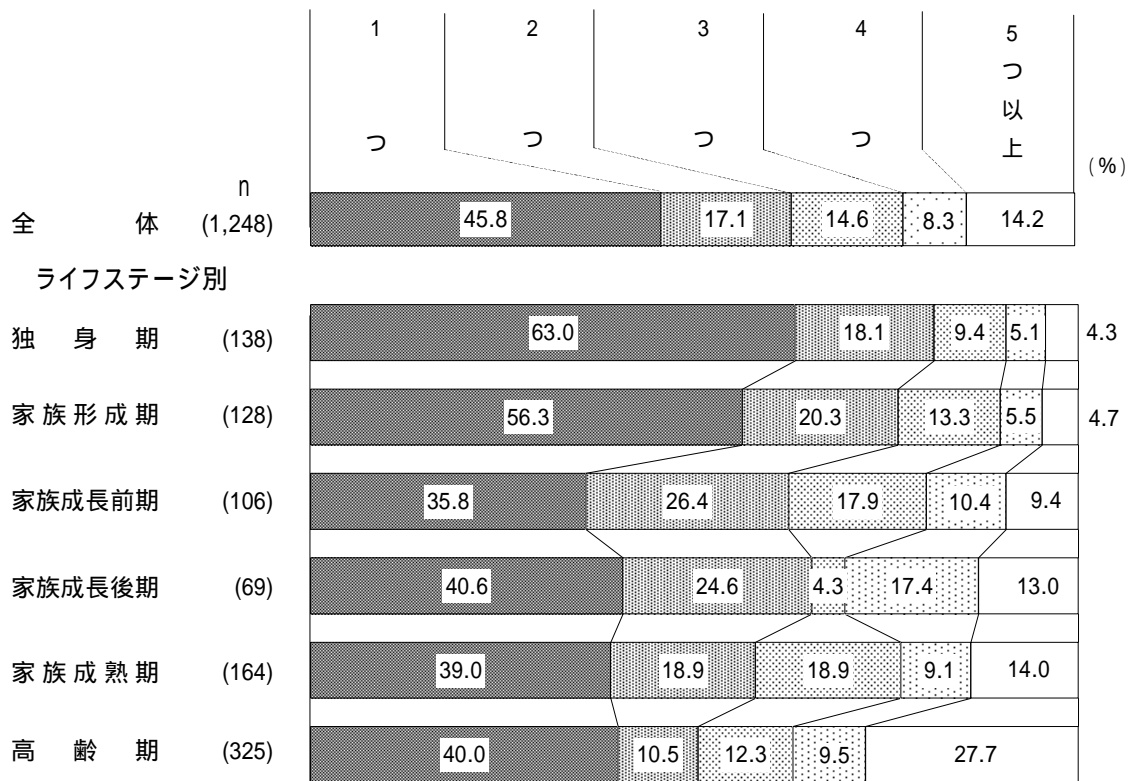
以前と比べてよくなったと思う区の取り組みとして選んだ項目の数を性・年代別にみると、図4 - 1 - 5のとおりである。1つだけ選んだ人は、男性20代、30代がそれぞれ61.3%と61.0%と高くなっている。5つ以上選んだ人は、男女共に年齢が上がるにつれ上昇する傾向があり、男性では70歳以上が30.6%、女性では70歳以上が25.0%と最も高い。

図 4 - 1 - 5 区の取り組みがよくなったと思う項目の数 (性・年代別)



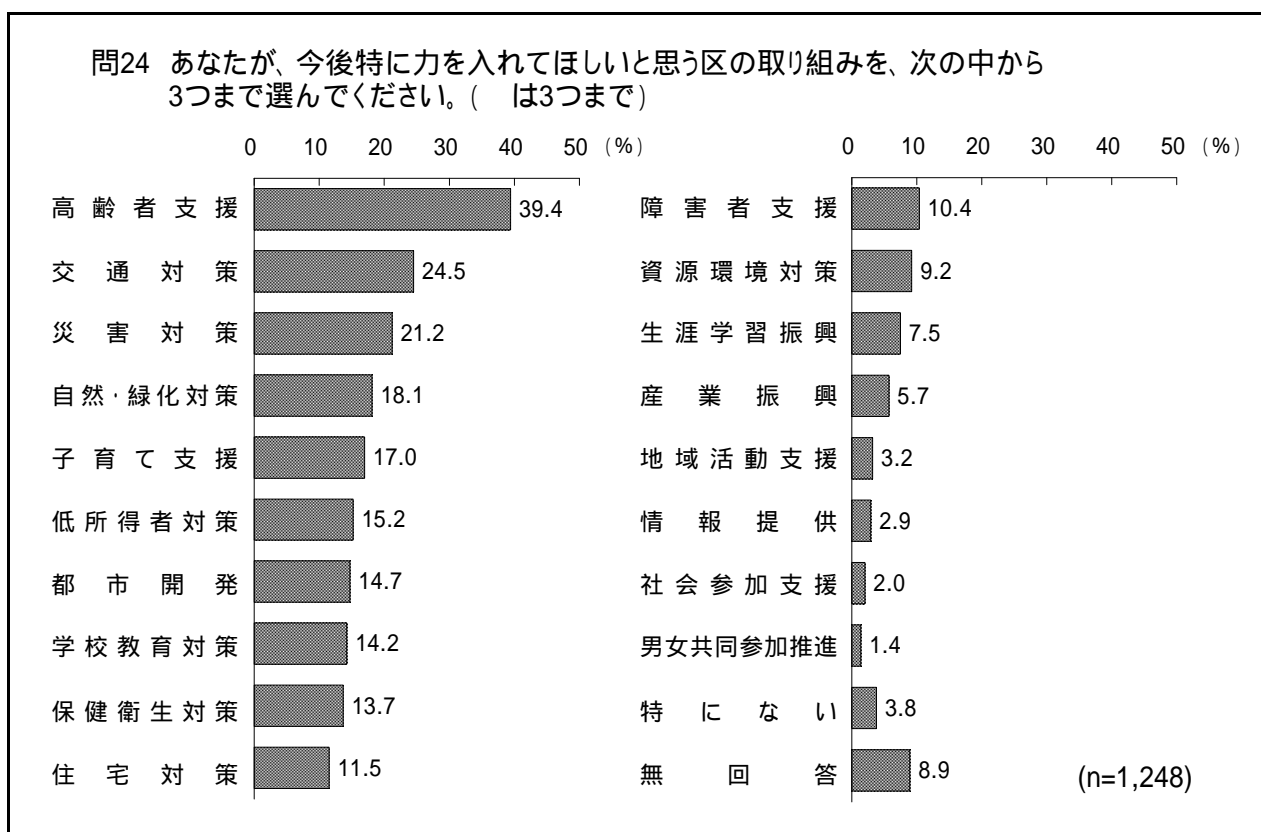
以前と比べてよくなったと思う区の取り組みとして選んだ項目の数をライフステージ別にみると図4 - 1 - 6のとおりである。1つだけ選んだ人は、独身期が63.0%と最も高く、5つ以上選んだ人は、高齢期が27.7%と最も高い。

図 4 - 1 - 6 区の取り組みがよくなったと思う項目の数 (ライフステージ別)



(2) 今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組み

「高齢者支援」が4割弱で最も高い



区の取り組み	内 容	区の取り組み	内 容
高齢者支援	在宅生活や介護の支援、施設の整備、生きがい対策など	住宅対策	良質な住宅の供給支援など
交通対策	道路や交通網の整備、交通安全対策など	障害者支援	在宅生活や介護の支援、施設の整備、就労支援など
災害対策	防災活動の充実、都市の不燃化など	資源環境対策	省エネルギー、ごみ処理、リサイクルなど
自然・緑化対策	公園や緑地、河川の整備など	生涯学習振興	文化・スポーツ活動の支援、施設の充実など
子育て支援	保育サービスや子育て相談の充実など	産業振興	商工業の支援、企業起しの支援、消費者対策など
低所得者対策	生活の援助や自立支援など	地域活動支援	町会・自治会活動の支援、青少年の健全育成など
都市開発	開発・再開発、美しい街並みや景観づくりなど	情報提供	広報やホームページなどによる区政情報の提供など
学校教育対策	教育内容の充実、施設の改修など	社会参加支援	NPOやボランティアの育成や支援など
保健衛生対策	健康づくり、健康診査、生活衛生など	男女共同参加推進	男女が平等に社会参加できるしくみづくりなど

今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組みについて聞いてみると、「高齢者支援」が39.4%と最も高く、次いで「交通対策」が24.5%、「災害対策」が21.2%の順で続いている。

地域ブロック別にみると、表4 - 2 - 1のとおりである。

第4ブロックをのぞく12のブロックで「高齢者支援」が第1位にあげられている。

表4 - 2 - 1 今後特に力を入れて欲しいと思う区の取り組み 上位5項目 (地域ブロック別)

(%)

	n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体	1,248	高齢者支援 (39.4)	交通対策 (24.5)	災害対策 (21.2)	自然・緑化対策 (18.1)	子育て支援 (17.0)
第1ブロック	132	高齢者支援 (41.7)	自然・緑化対策 (24.2)	災害対策 (19.7)	子育て支援 (18.9)	交通対策 (17.4)
第2ブロック	80	高齢者支援 (41.3)	交通対策 (22.5)	低所得者対策 / 子育て支援 (20.0)		都市開発 / 災害対策 (16.3)
第3ブロック	91	高齢者支援 (28.6)	災害対策 / 子育て支援 (22.0)		交通対策 (20.9)	学校教育対策 (17.6)
第4ブロック	105	交通対策 (30.5)	災害対策 / 高齢者支援 (28.6)		学校教育対策 (21.0)	自然・緑化対策 (18.1)
第5ブロック	118	高齢者支援 (32.2)	交通対策 (27.1)	災害対策 (22.0)	自然・緑化対策 (19.5)	都市開発 (17.8)
第6ブロック	132	高齢者支援 (50.8)	災害対策 (26.5)	交通対策 (20.5)	自然・緑化対策 / 低所得者対策 (18.2)	
第7ブロック	92	高齢者支援 (44.6)	交通対策 (35.9)	災害対策 (19.6)	自然・緑化対策 (18.5)	低所得者対策 / 子育て支援 (15.2)
第8ブロック	94	高齢者支援 (31.9)	交通対策 (26.6)	都市開発 (23.4)	自然・緑化対策 / 低所得者対策 (21.3)	
第9ブロック	53	高齢者支援 (39.6)	交通対策 (24.5)	住宅対策 (15.1)	自然・緑化対策 (13.2)	都市開発 (11.3)
第10ブロック	115	高齢者支援 (46.1)	交通対策 (24.3)	災害対策 (23.5)	保健衛生対策 (22.6)	子育て支援 (18.3)
第11ブロック	89	高齢者支援 (38.2)	交通対策 (23.6)	保健衛生対策 (20.2)	災害対策 / 子育て支援 (19.1)	
第12ブロック	61	高齢者支援 (42.6)	交通対策 (31.1)	低所得者対策 (21.3)	自然・緑化対策 (19.7)	都市開発 / 災害対策 (18.0)
第13ブロック	86	高齢者支援 (44.2)	低所得者対策 (22.1)	災害対策 (20.9)	交通対策 / 自然・緑化対策 / 子育て支援 (18.6)	

ブロック区分



性・年代別にみると、表4 - 2 - 2のとおりである。

「高齢者支援」は男性は50代以上の年代、女性は40代以上の年代で第1位にあげられている。また、女性の30代では「子育て支援」が第1位にあげられており(39.2%)、これは他の年代ではみられない傾向である。

表4 - 2 - 2 今後特に力を入れて欲しいと思う区の取り組み 上位5項目 (性・年代別)

(%)

	n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体	1,248	高齢者支援 (39.4)	交通対策 (24.5)	災害対策 (21.2)	自然・緑化対策 (18.1)	子育て支援 (17.0)
男性20代	31	都市開発 / 自然・緑化対策 (32.3)		高齢者支援 (29.0)	交通対策 / 子育て支援 (22.6)	
30代	82	交通対策 (35.4)	自然・緑化対策 / 子育て支援 (26.8)		都市開発 (24.4)	学校教育対策 (18.3)
40代	94	交通対策 (34.0)	自然・緑化対策 (25.5)	高齢者支援 (24.5)	災害対策 (23.4)	子育て支援 (22.3)
50代	81	高齢者支援 (48.1)	災害対策 (34.6)	交通対策 (25.9)	低所得者対策 / 子育て支援 (16.0)	
60代	116	高齢者支援 (49.1)	交通対策 (24.1)	低所得者対策 (19.0)	保健衛生対策 (18.1)	災害対策 (16.4)
70歳以上	98	高齢者支援 (46.9)	交通対策 / 自然・緑化対策 / 災害対策 (16.3)			低所得者対策 (13.3)
女性20代	75	災害対策 (26.7)	高齢者支援 / 子育て支援 (24.0)		都市開発 (21.3)	交通対策 (20.0)
30代	143	子育て支援 (39.2)	学校教育対策 (28.7)	交通対策 (23.1)	高齢者支援 (22.4)	自然・緑化対策 (21.7)
40代	114	高齢者支援 (36.8)	交通対策 (30.7)	学校教育対策 (21.9)	自然・緑化対策 / 災害対策 (20.2)	
50代	119	高齢者支援 (47.1)	災害対策 (29.4)	自然・緑化対策 (19.3)	交通対策 (17.6)	障害者支援 (14.3)
60代	144	高齢者支援 (52.1)	交通対策 (27.1)	低所得者対策 (20.8)	災害対策 (19.4)	自然・緑化対策 (15.3)
70歳以上	132	高齢者支援 (58.3)	交通対策 (20.5)	災害対策 (19.7)	保健衛生対策 (18.9)	低所得者対策 (16.7)

居住年数別にみると、表4 - 2 - 3のとおりである。

居住年数が「1年未満」、「1～5年未満」では第1位が「交通対策」となっており、「5～10年未満」、「10～20年未満」、「20年以上」では第1位は「高齢者支援」があげられている。

表4 - 2 - 3 今後特に力を入れて欲しいと思う区の取り組み 上位5項目 (居住年数別)
(%)

	n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体	1,248	高齢者支援 (39.4)	交通対策 (24.5)	災害対策 (21.2)	自然・緑化対策 (18.1)	子育て支援 (17.0)
1年未満	38	交通対策 (39.5)	子育て支援 (31.6)	自然・緑化対策 (26.3)	都市開発 (21.1)	住宅対策 (15.8)
1～5年未満	120	交通対策 (31.7)	子育て支援 (25.8)	自然・緑化対策 (23.3)	高齢者支援 (21.7)	都市開発 (20.8)
5～10年未満	94	高齢者支援 (30.9)	子育て支援 (26.6)	自然・緑化対策 (25.5)	交通対策 / 学校教育対策 (24.5)	
10～20年未満	147	高齢者支援 (38.1)	交通対策 (25.2)	災害対策 (24.5)	子育て支援 / 学校教育対策 (19.0)	
20年以上	830	高齢者支援 (44.3)	交通対策 (23.0)	災害対策 (21.6)	自然・緑化対策 (15.9)	低所得者対策 (15.8)

今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組みを昨年と比較すると、表4 - 2 - 4のとおりである。

平成19年と平成20年全体で第1位～第4位までの項目は変わらず、「高齢者支援」を除く4項目においては昨年よりも下降しており、特に「都市開発」「交通対策」はそれぞれ5.2ポイント、4.7ポイントと、5ポイント近く下降している。男女別にみると、男性では「都市開発」が昨年よりも6.8ポイント下降し、女性では「交通対策」が昨年より5.5ポイント下降している。

表 4 - 2 - 4 今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組み 上位5項目の推移

全 体

(%)

	平成20年の上位		平成19年の上位		平成20年と平成19年の差
	順位	%	順位	%	
高 齢 者 支 援	第1位	39.4	第1位	39.1	+0.3
交 通 対 策	第2位	24.5	第2位	29.2	-4.7
災 害 対 策	第3位	21.2	第3位	22.2	-1.0
自 然 ・ 緑 化 対 策	第4位	18.1	第4位	22.1	-4.0
子 育 て 支 援	第5位	17.0	第7位	19.0	-2.0

男 性

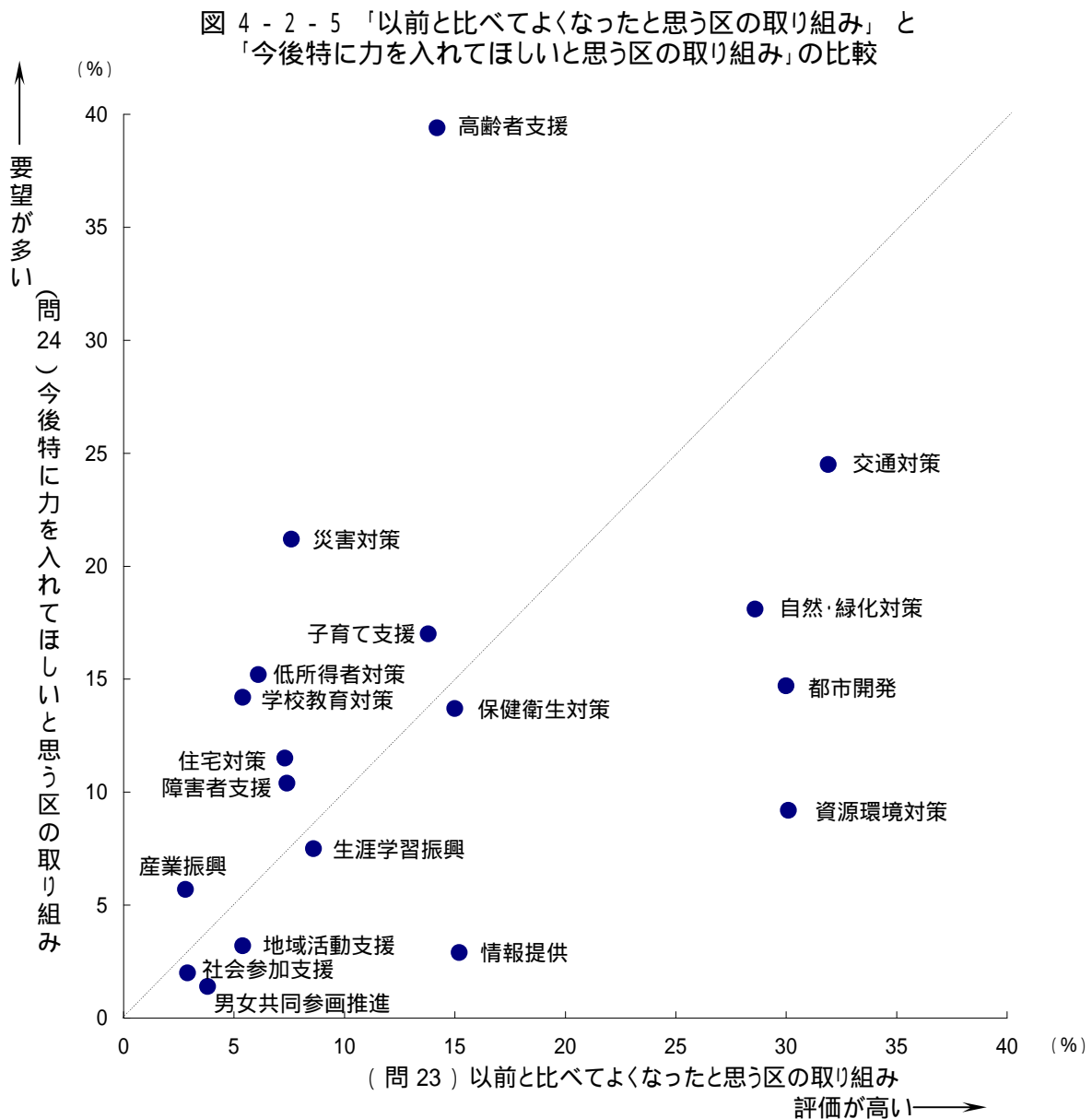
	平成20年の上位		平成19年の上位		平成20年と平成19年の差
	順位	%	順位	%	
高 齢 者 支 援	第1位	37.1	第1位	39.4	-2.3
交 通 対 策	第2位	26.5	第2位	30.0	-3.5
自 然 ・ 緑 化 対 策	第3位	20.3	第3位	24.8	-4.5
災 害 対 策	第4位	19.9	第5位	22.6	-2.7
都 市 開 発	第5位	16.3	第4位	23.1	-6.8

女 性

	平成20年の上位		平成19年の上位		平成20年と平成19年の差
	順位	%	順位	%	
高 齢 者 支 援	第1位	41.2	第1位	38.9	+2.3
交 通 対 策	第2位	23.5	第2位	29.0	5.5
災 害 対 策	第3位	22.3	第3位	22.2	+0.1
子 育 て 支 援	第4位	17.0	第5位	19.1	2.1
自 然 ・ 緑 化 対 策	第5位	16.8	第4位	20.6	3.8

問23の「以前と比べてよくなったと思う区の取り組み」(評価)と問24の「今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組み」(要望)を比較対照すると、図4 - 2 - 5のとおりである。

評価が20%を下回り、かつ要望が20%を超える項目は「高齢者支援」と「災害対策」である。また、評価が20%を超えて比較的高く、かつ要望が20%を超える項目は「交通対策」である。



参考 今後力を入れてほしいと思う区の取り組みの推移

(平成12年まで 訪問面接法)

問 区で最も力を入れてやってほしい対策を、この中から2つまでお答えください。

(は2つまで)

(%)

	n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
平成6年	1,549	高齢者福祉 (41.8)	ごみ・リサイクル 対策 (17.0)	住宅対策 (15.2)	交通網の整備 (14.3)	保健医療の充実 (13.2)
平成7年	1,500	高齢者福祉 (36.9)	ごみ・リサイクル 対策 (16.3)	防災対策 (15.1)	交通網の整備 (13.0)	住宅対策 (12.1)
平成8年	1,512	高齢者福祉 (43.9)	保健医療の充実 (20.0)	ごみ・リサイクル 対策 (16.5)	交通網の整備 (14.1)	住宅対策 (14.0)
平成9年	1,533	高齢者福祉 (42.3)	保健医療の充実 (23.7)	交通網の整備 (12.2)	防災対策 (10.8)	住宅対策 (8.8)
平成10年	1,497	高齢者福祉 (39.3)	保健医療の充実 (19.9)	交通網の整備 (12.6)	住宅対策 (10.8)	道路の整備 (9.2)
平成11年	1,503	高齢者福祉 (45.4)	保健医療の充実 (17.2)	ごみ・リサイクル 対策 (15.0)	幼児・児童福祉 (10.4)	交通網の整備 (9.8)
平成12年	1,420	高齢者福祉 (37.7)	保健医療の充実 (16.9)	ごみ・リサイクル 対策 (16.2)	交通網の整備 (10.7)	幼児・児童福祉 (9.5)

(平成13年以降 郵送配布郵送回収法)

問 あなたが、今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組みを次の中から3つまで選んでください。(は3つまで)

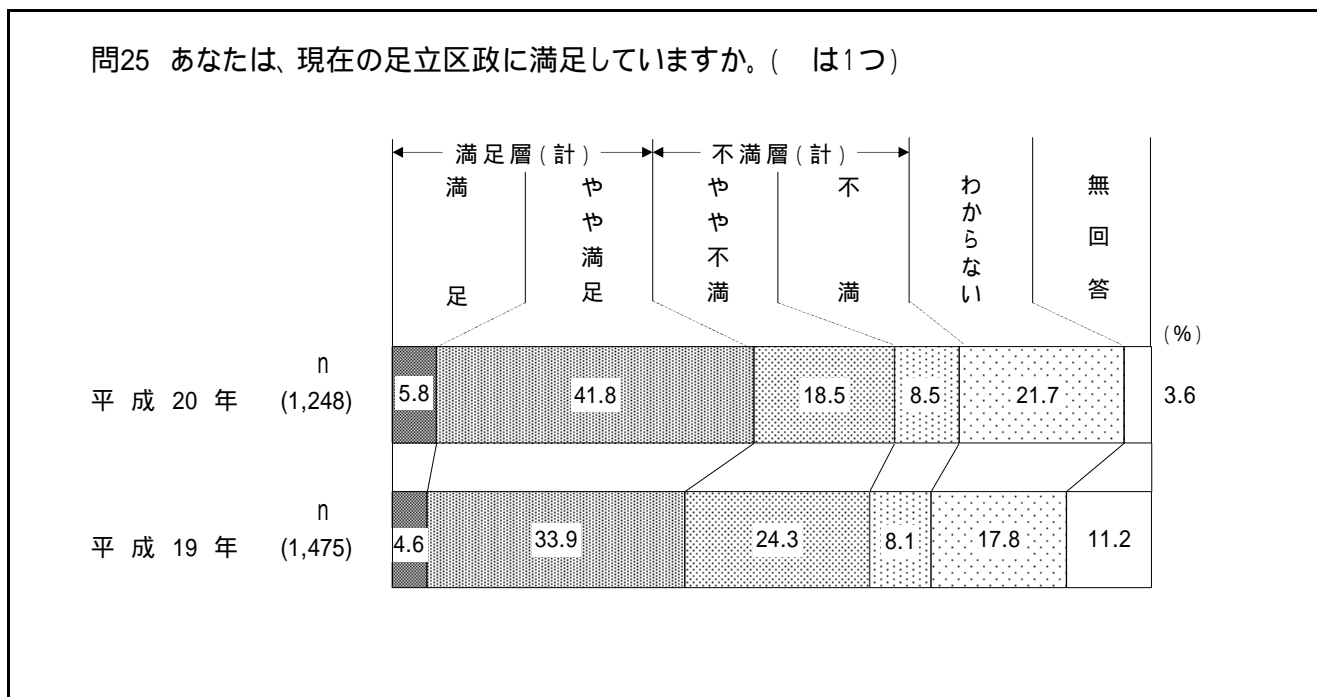
(%)

	n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
平成13年	1,907	高齢者支援 (35.9)	交通対策 (29.1)	都市開発 (16.9)	子育て支援 (16.8)	住宅対策 (16.7)
平成14年	1,808	高齢者支援 (36.6)	交通対策 (33.4)	都市開発 (20.4)	資源環境対策 (19.1)	自然・緑化対策 (18.0)
平成15年	1,890	交通対策 (33.9)	高齢者支援 (33.1)	自然・緑化対策 (20.6)	都市開発 (20.0)	子育て支援 (19.8)
平成16年	1,497	高齢者支援 (38.5)	交通対策 (31.1)	子育て支援 (21.2)	自然・緑化対策 (19.6)	都市開発 (16.8)
平成17年	1,486	高齢者支援 (34.1)	交通対策 (30.0)	災害対策 (28.3)	子育て支援 (21.7)	自然・緑化対策 (18.7)
平成18年	1,383	高齢者支援 (34.8)	交通対策 (27.6)	災害対策 (20.2)	自然・緑化対策 (18.9)	子育て支援 (17.9)
平成19年	1,475	高齢者支援 (39.1)	交通対策 (29.2)	災害対策 (22.2)	自然・緑化対策 (22.1)	都市開発 (19.9)
平成20年	1,248	高齢者支援 (39.4)	交通対策 (24.5)	災害対策 (21.2)	自然・緑化対策 (18.1)	子育て支援 (17.0)

(注) 平成12年までと平成13年以降では、調査方法(平成12年までは訪問面接法、13年以降は郵送配布郵送回収法)、質問文、選択肢が異なるため、結果を単純に比較することはできない。

(3) 区政に対する満足度

《満足層》は昨年より上昇、《不満層》は昨年より下降



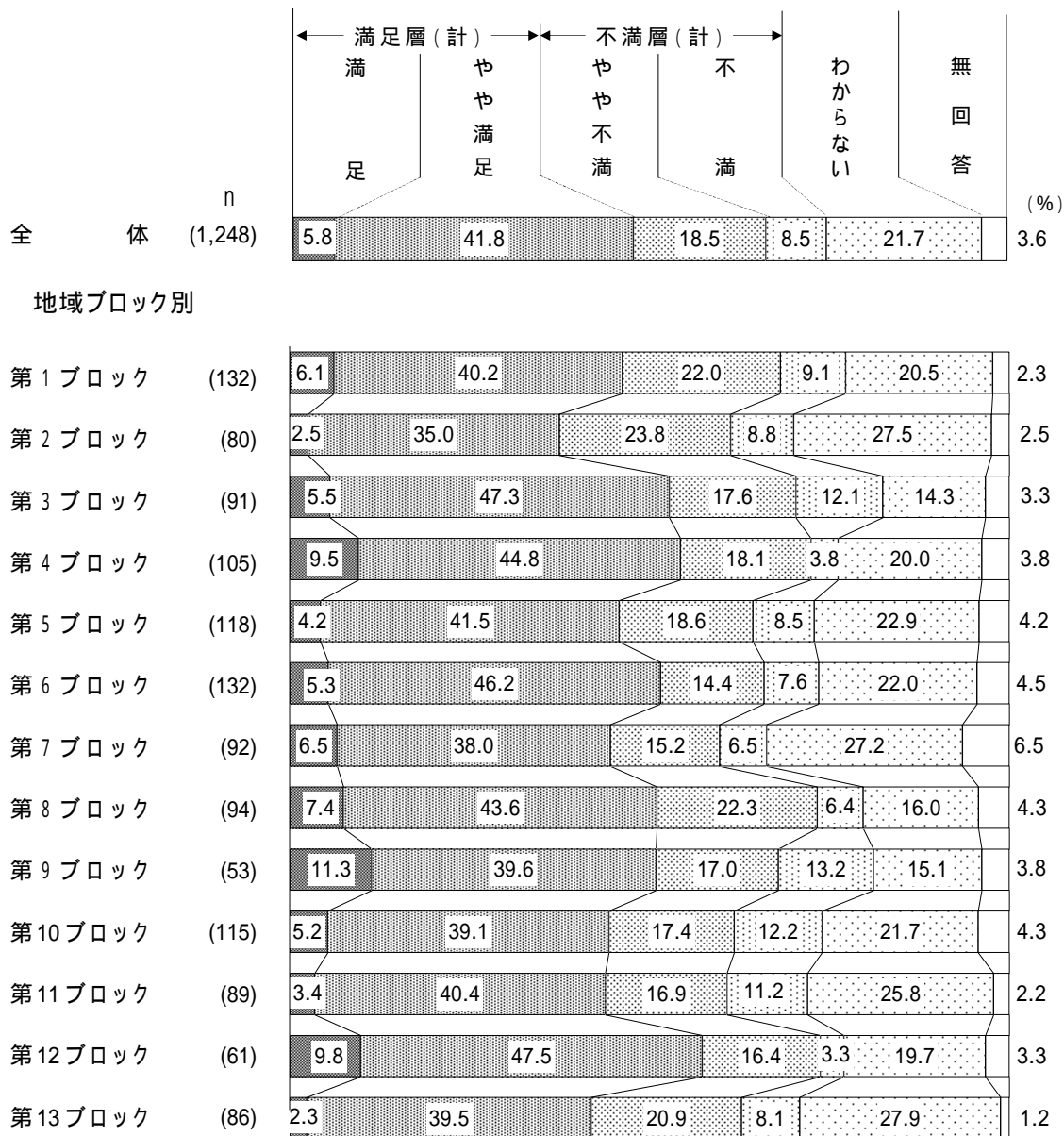
区政に対する満足度を聞いてみると、「満足」が5.8%、「やや満足」が41.8%で、これらを合わせた《満足層》は47.6%である。また「不満」の8.5%と「やや不満」の18.5%を合わせた《不満層》は27.0%である。

平成19年と比較すると、《満足層》は38.5%から47.6%へ9.1ポイント上昇している一方で、《不満層》は32.4%から27.0%へ5.4ポイント下降している。

地域ブロック別にみると、図4 - 3 - 1のとおりである。

《満足層》は第12ブロック(57.4%)、第4ブロック(54.3%)、第3ブロック(52.7%)が比較的高い。一方、《不満層》は第2ブロック(32.5%)、第1ブロック(31.1%)、第9ブロック(30.2%)が比較的高い。

図 4 - 3 - 1 区政に対する満足度 (地域ブロック別)



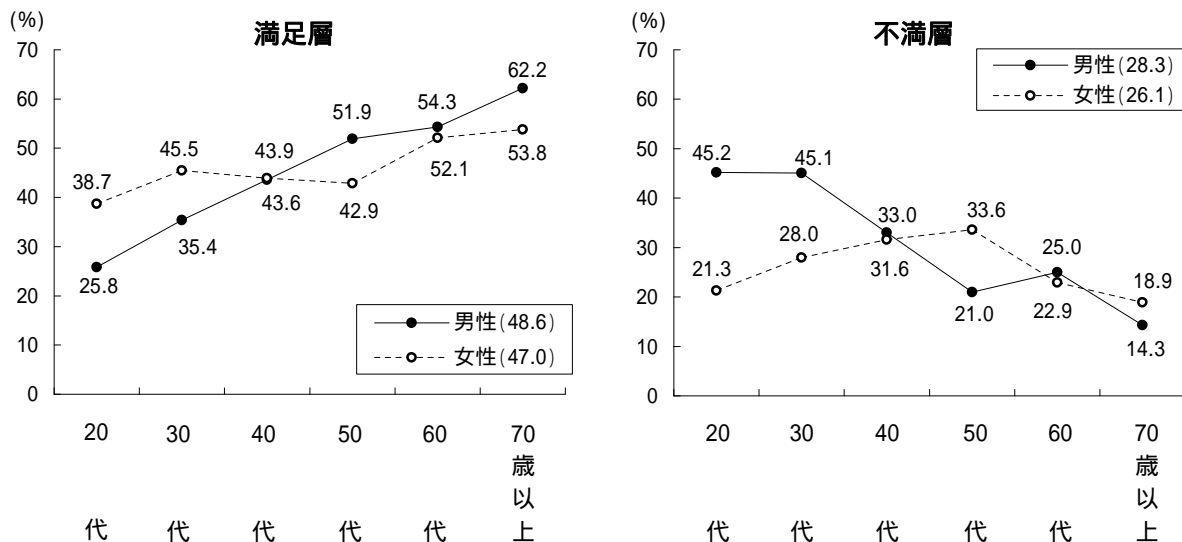
ブロック区分



性・年代別にみると、図4 - 3 - 2のとおりである。

《満足層》は、男女共に年代が上がるにつれ上昇する傾向を示し、40代より上の年代から男性が女性よりも高くなっている。《不満層》は、男性は年代が上がると共に下降を示している。

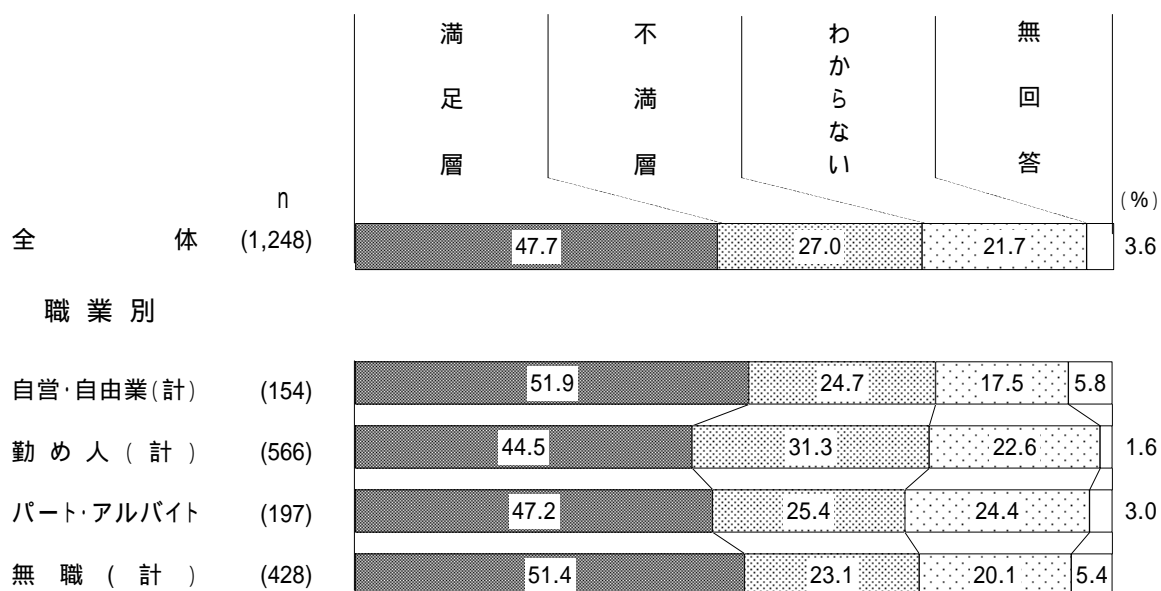
図 4 - 3 - 2 区政に対する満足度（性・年代別）



：()内の数値は男女それぞれの全体を示す

職業別にみると、図4 - 3 - 3のとおりである。《満足層》は自営・自由業(計)で51.9%と最も高く、一方、《不満層》は勤め人(計)で31.3%と最も高い。

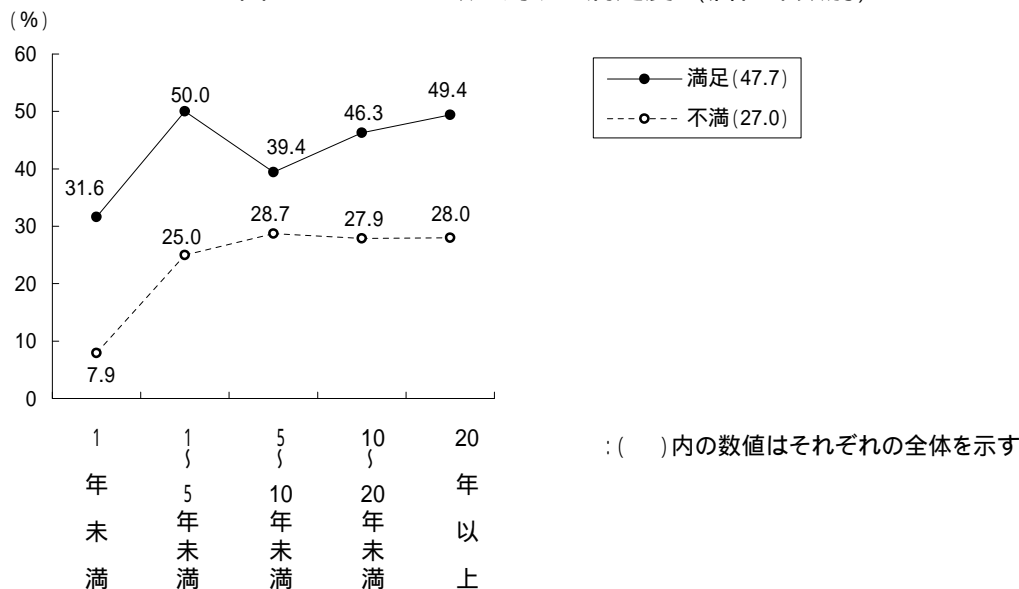
図 4 - 3 - 3 区政に対する満足度（職業別）



居住年数別にみると、図4 - 3 - 4のとおりである。

《満足層》が最も高いのは、「1～5年未満」で50.0%である。また、《満足層》と《不満層》の差が最も大きいのも「1～5年未満」で25ポイントの差があり、次いで「1年未満」で23.7ポイントの差がある。

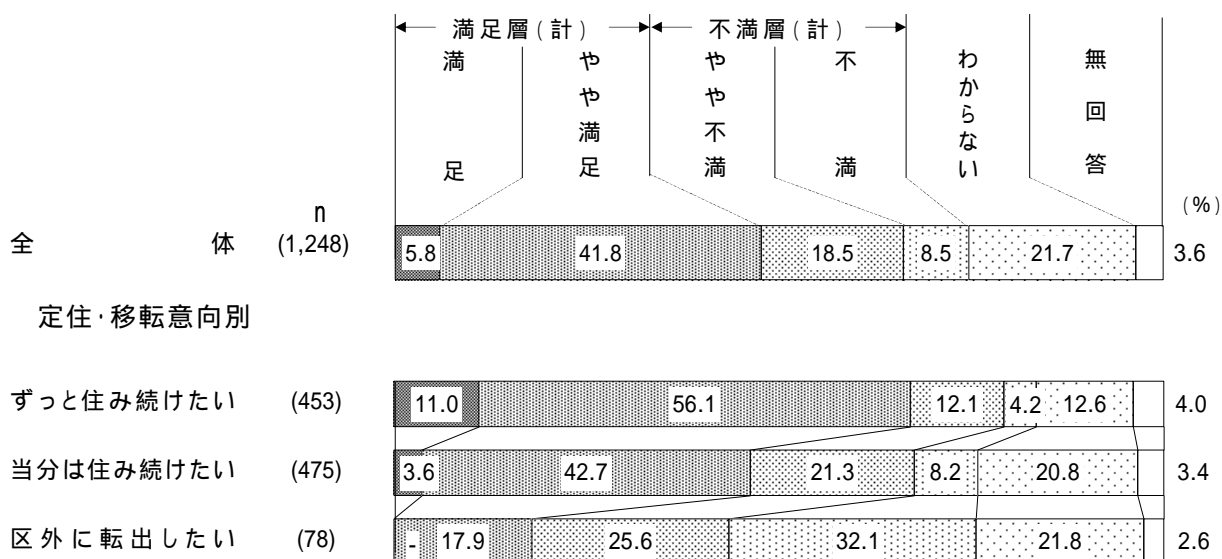
図 4 - 3 - 4 区政に対する満足度（居住年数別）



定住・移転意向別にみると、図4 - 3 - 5のとおりである。

《満足層》は「ずっと住み続けたい」人では67.1%となっている。定住意向が強いほど、区政に対する《満足層》の割合が高くなっている。

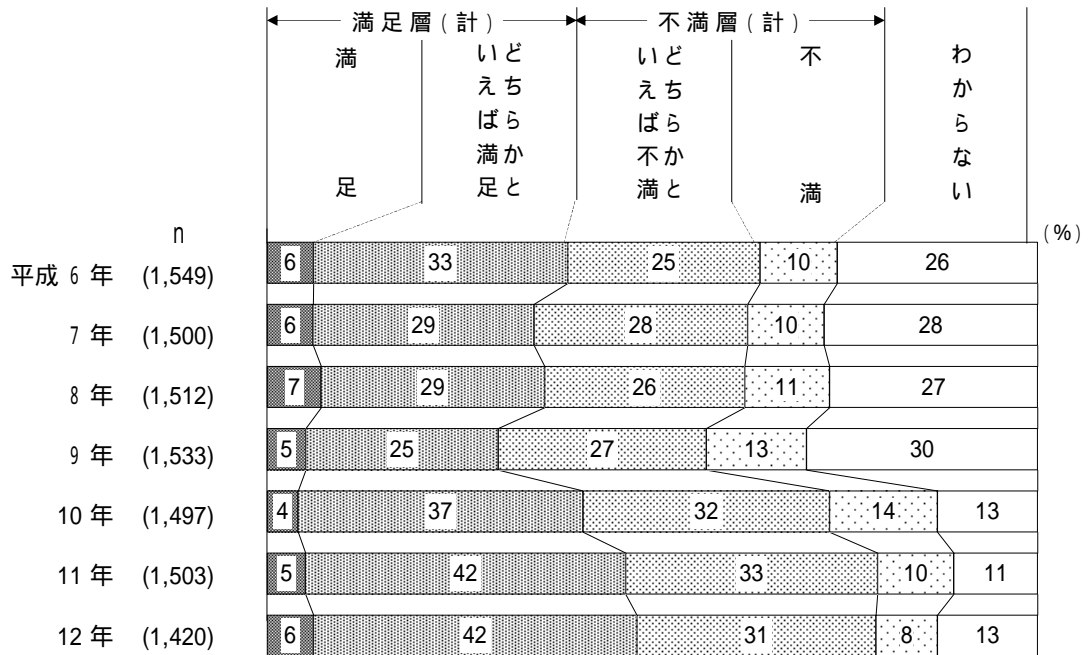
図 4 - 3 - 5 区政に対する満足度（定住・移転意向別）



参考 区政に対する満足度の推移

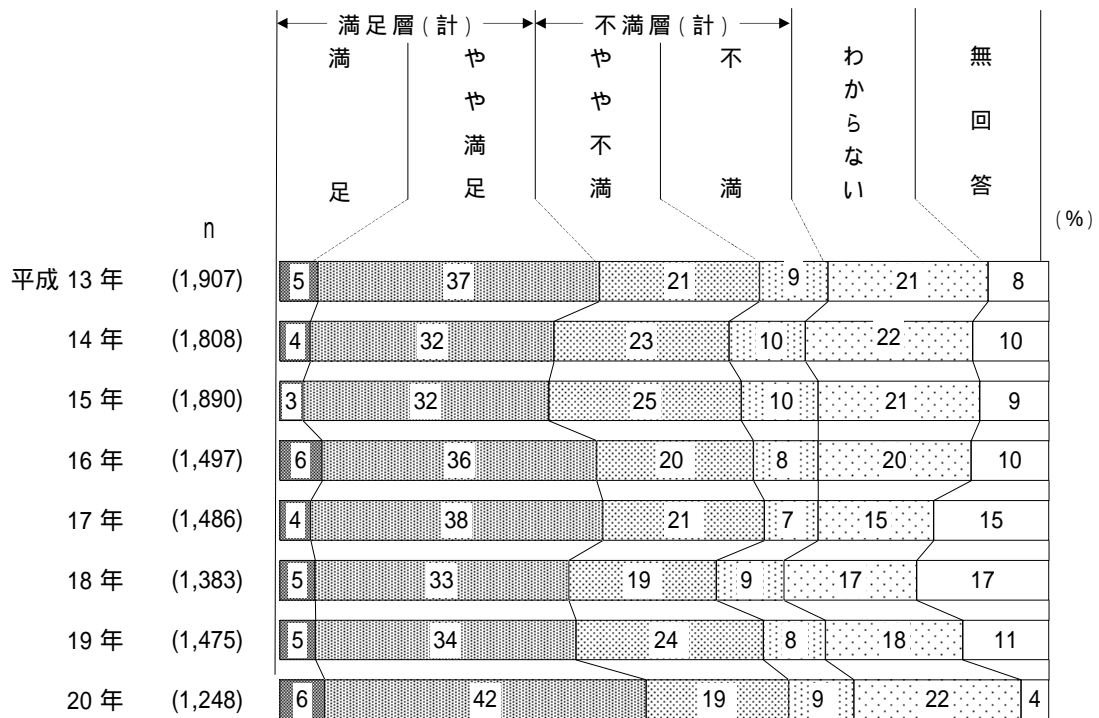
(平成12年まで 訪問面接法)

問 あなたは、現在の足立区政に満足していますか。この中から1つお答えください。
(は1つ)



(平成13年以降 郵送配布郵送回収法)

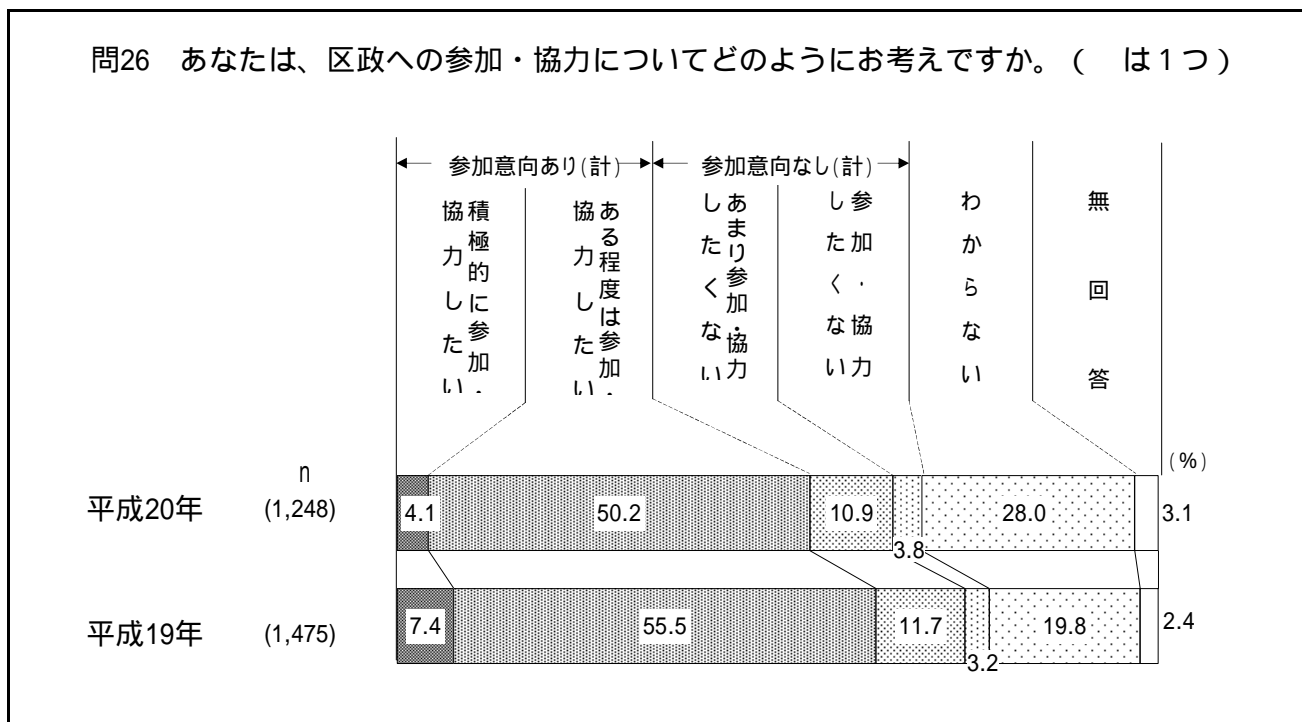
問 あなたは、現在の足立区政に満足していますか。(は1つ)



(注) 平成12年までと平成13年以降では、調査方法(平成12年までは訪問面接法、13年以降は郵送配布郵送回収法)、質問文、選択肢が異なるため、結果を単純に比較することはできない。

(4) 区政への参加

区政に参加・協力したいと考えている人は62.9%



区政への参加・協力について聞いてみると、「積極的に参加・協力したい」(4.1%)と「ある程度は参加・協力したい」(50.2%)を合わせた(参加意向あり)が54.2%である。

平成19年と比較すると、(参加意向あり)は8.6ポイント下降している。

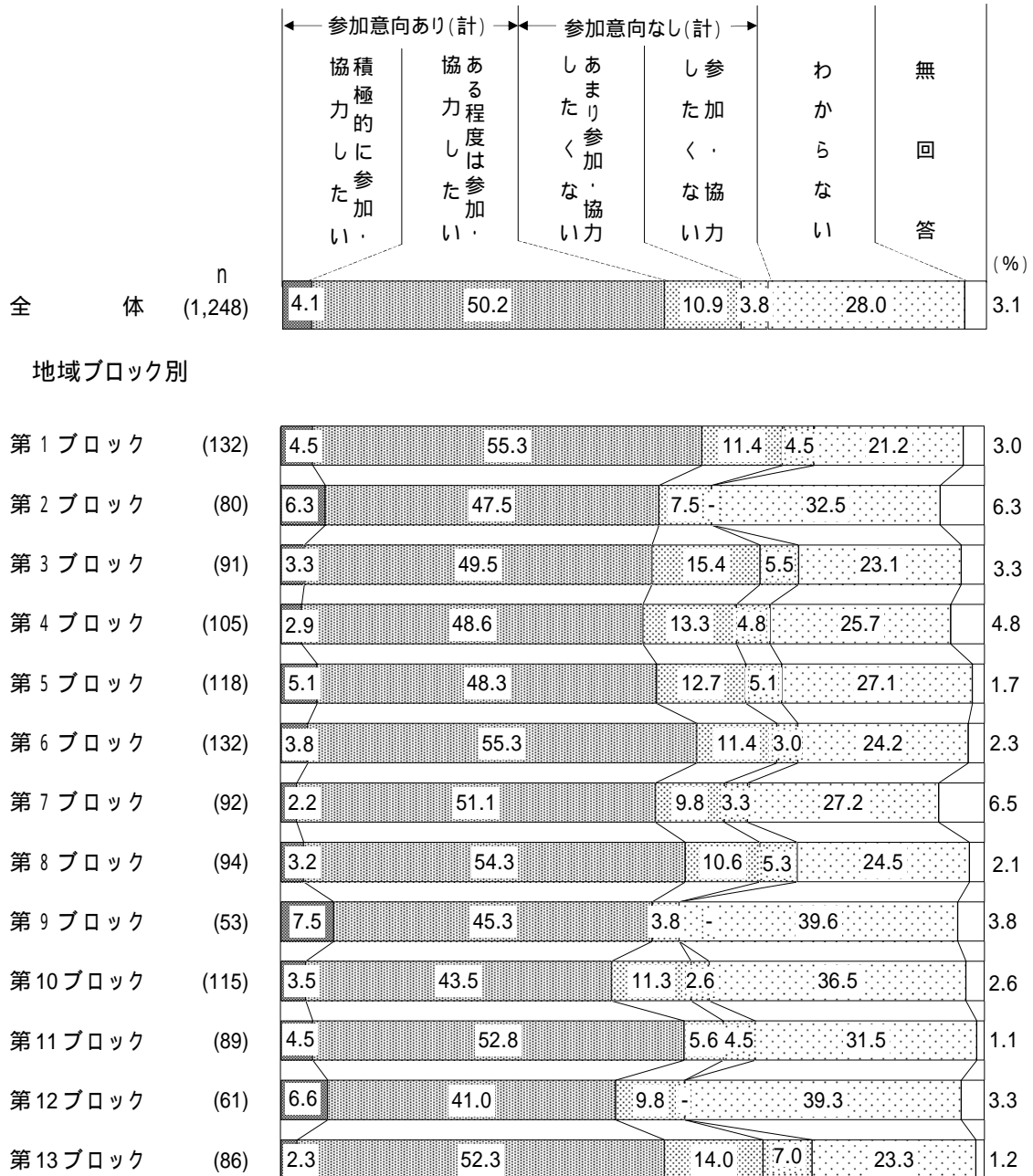
一方、「参加・協力したくない」(3.8%)と「あまり参加・協力したくない」(10.9%)を合わせた(参加意向なし)は14.7%であり、平成19年と比較すると0.2ポイント下降している。

また「わからない」と回答した人は28.0%で、平成19年と比較すると8.2ポイント上昇している。

地域ブロック別にみると、図4-4-1のとおりである。

〈参加意向あり〉では第1ブロック(59.8%)が最も高く、次いで第6ブロック(59.1%)、第8ブロック(57.4%)、第11ブロック(57.3%)の順となっている。〈参加意向なし〉では、第3ブロックと第13ブロックがそれぞれ20.9%と最も高い。

図4-4-1 区政への参加（地域ブロック別）



ブロック区分



性・年代別にみると、図4 - 4 - 2のとおりである。

《参加意向あり》が最も高いのは女性30代で60.1%、次いで男性60代が58.6%となっている。

《参加意向なし》が最も高いのは男性20代で35.5%、次いで男性40代が23.4%となっている。

ライフステージ別、定住・移転意向別、区政への満足度別にみると、図4 - 4 - 3のとおりである。

ライフステージ別で《参加意向あり》が比較的高いのは「家族形成期」と「家族成熟期」で、それぞれ60.2%と63.4%と6割を超えている。一方、《参加意向なし》が最も高いのは「独身期」で28.3%である。

定住・移転意向別で《参加意向あり》は「ずっと住み続けたい」(60.5%)と「当分は住み続けたい」(60.0%)が6割を超えている。

区政への満足度別で《参加意向あり》が最も高いのは「やや満足」で65.5%を示している。一方、「不満」と答えた方の《参加意向あり》は最も低かったが、それでも51.9%を示し、5割を超えている。

図 4 - 4 - 2 区政への参加（性・年代別）

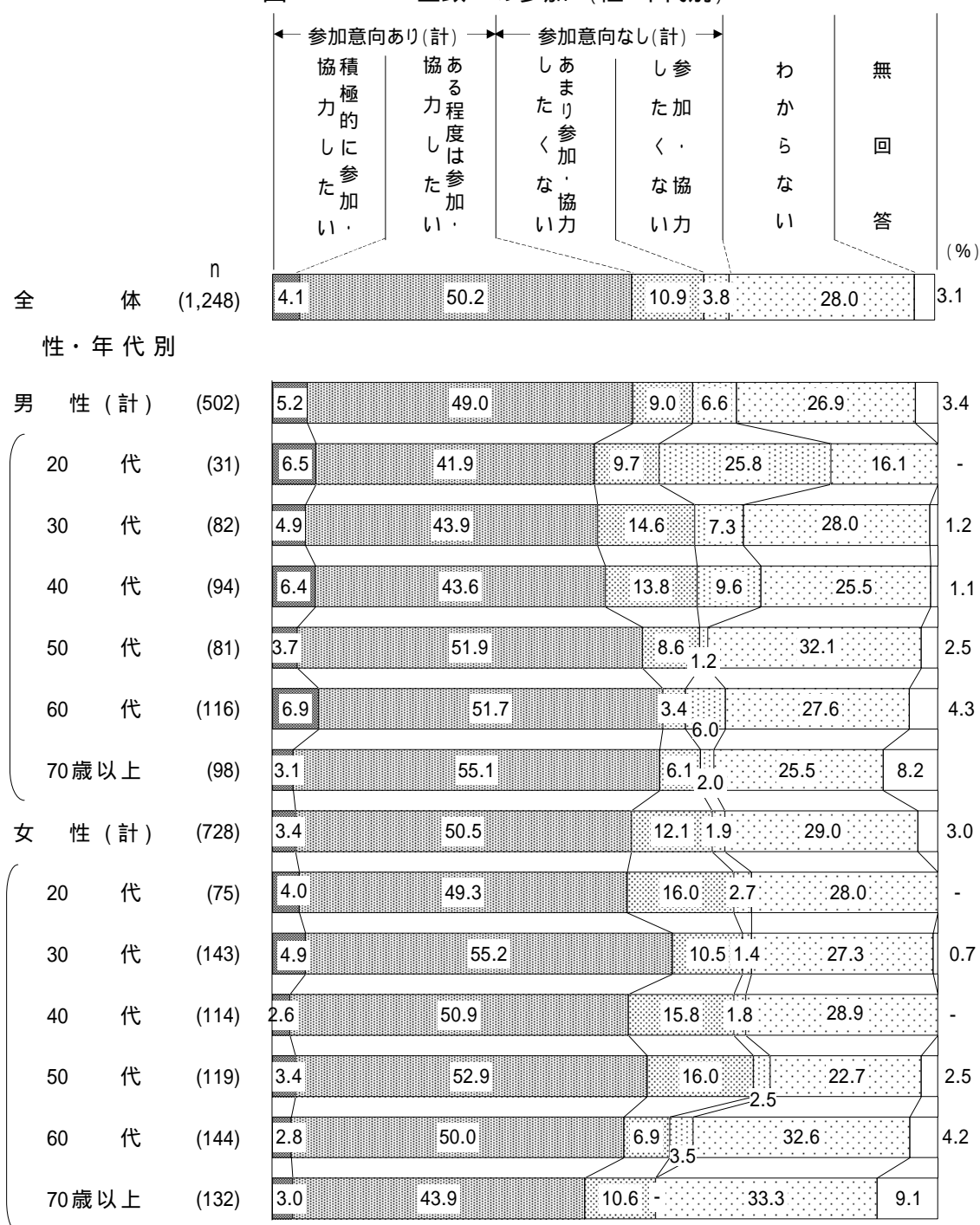
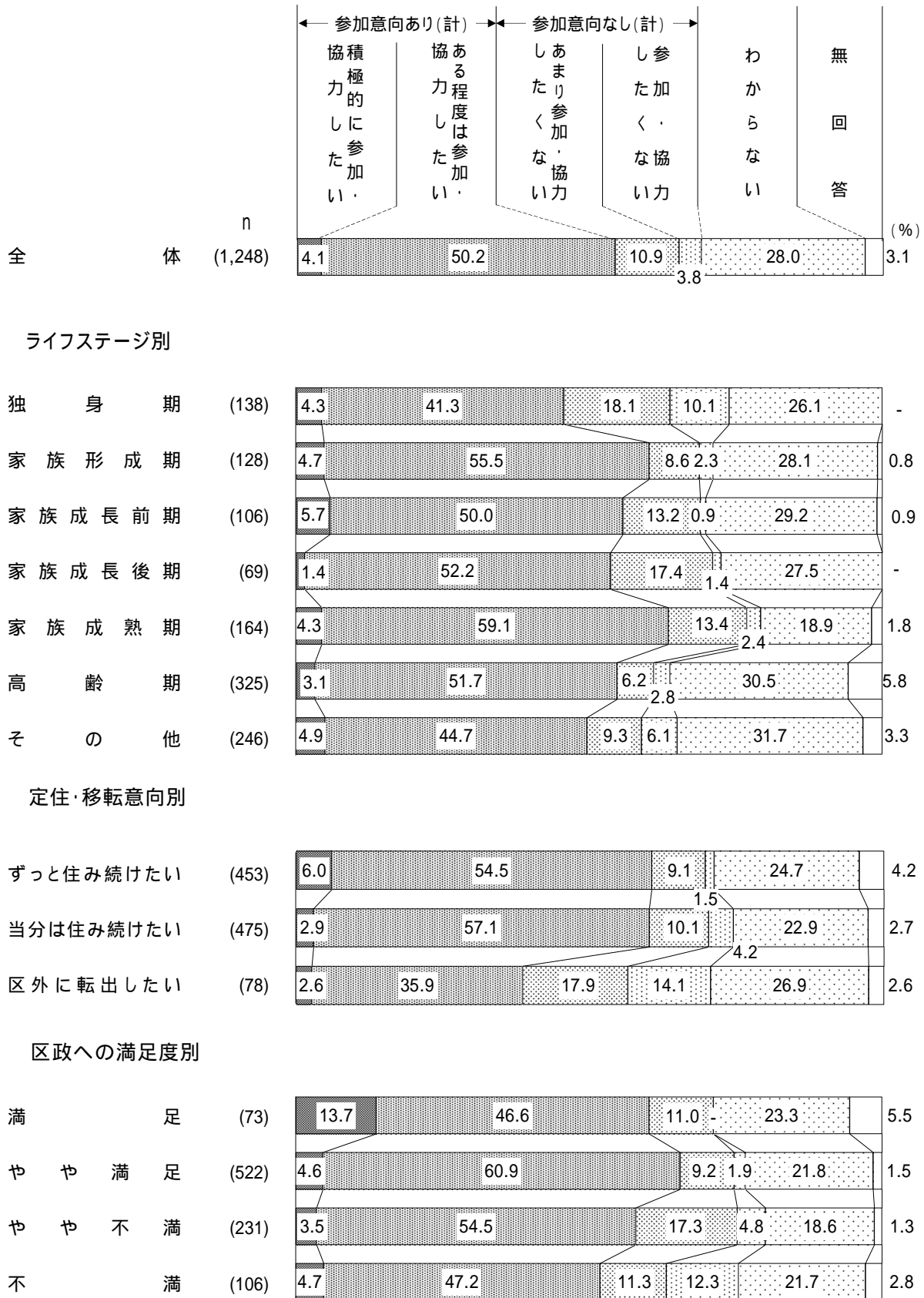
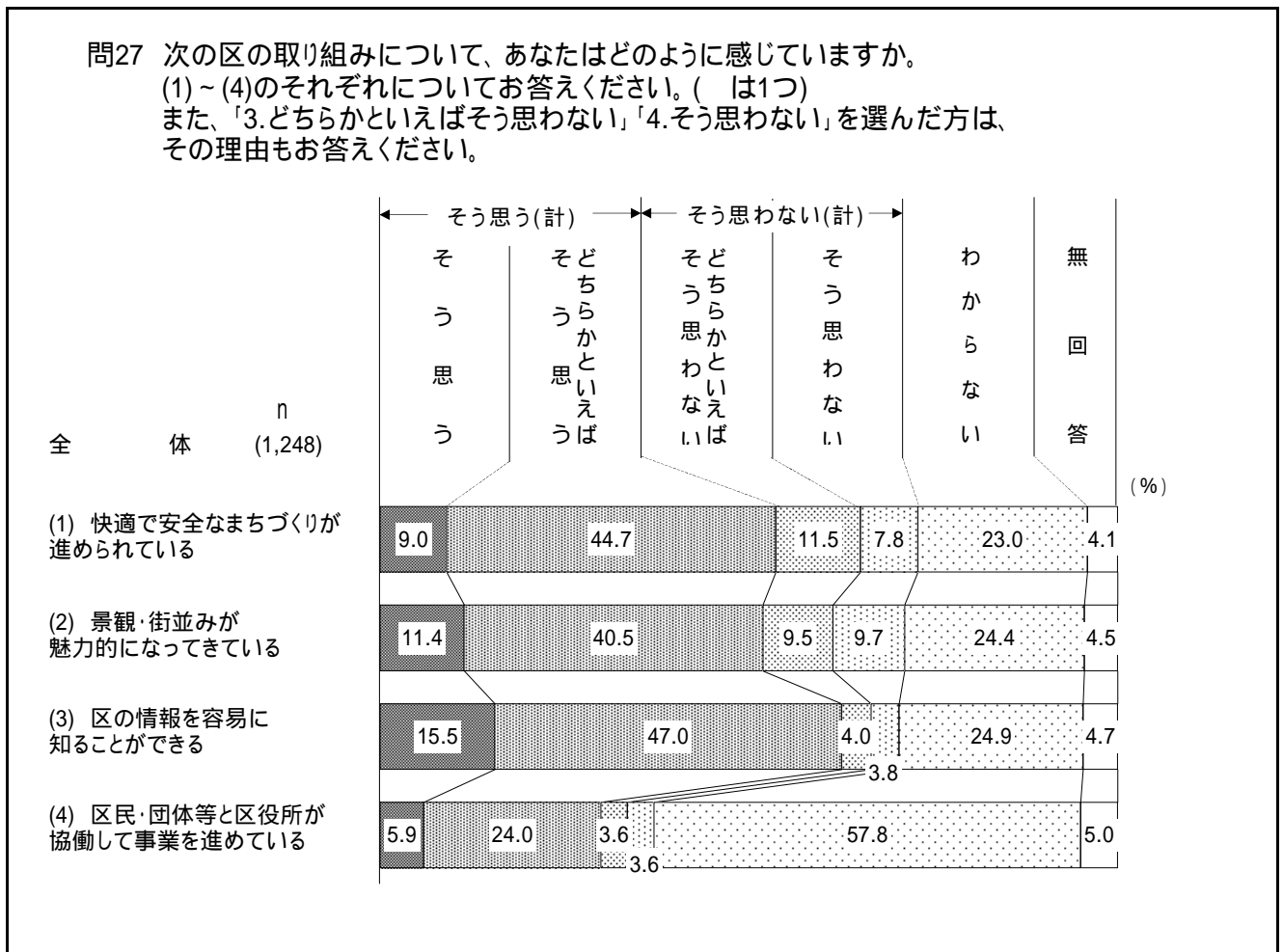


図 4 - 4 - 3 区政への参加（ライフステージ別、定住・移転意向別、区政への満足度別）



(5) 区の取り組みについての評価・印象

「(3) 区の情報を容易に知ることができる」が62.5%で最も高い



区の取り組みについての評価・印象は上のグラフのとおりである。

「(1)快適で安全なまちづくりが進められている」と「(2)景観・街並みが魅力的になってきている」で「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた(そう思う)はそれぞれ53.7%と51.9%で5割以上の値を示している。一方、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた(そう思わない)は19.2%を示している。

「(3)区の情報を容易に知ることができる」では(そう思う)が62.5%を示し、4項目の中で最も高い。

「(4)区民・団体等と区役所が協働して事業を進めている」では「わからない」と答えた人が57.8%と、50%以上を示している。

性・年代別でみると図4 - 5 - 1のとおりである。

「(1)快適で安全なまちづくりが進められている」では、年代が上がるにつれ(そう思う)の割合が上昇する傾向にある。

「(2)景観・街並みが魅力的になってきている」においては、男性50代で(そう思う)の割合が67.9%と最も高く、女性では60代と70歳以上でそれぞれ57.6%と53.8%と比較的高い値を示している。

「(3)区の情報を容易に知ることができる」では、男性70歳以上、女性60代、70歳以上において(そう思う)がそれぞれ67.3%、67.4%、65.9%と高い値を示している。

「(4)区民・団体等と区役所が協働して事業を進めている」では、男性、女性ともに20代及び女性30代で「わからない」と答えた人が7割を超えている。

図 4 - 5 - 1 (1)快適で安全なまちづくりが進められている(性・年代別)

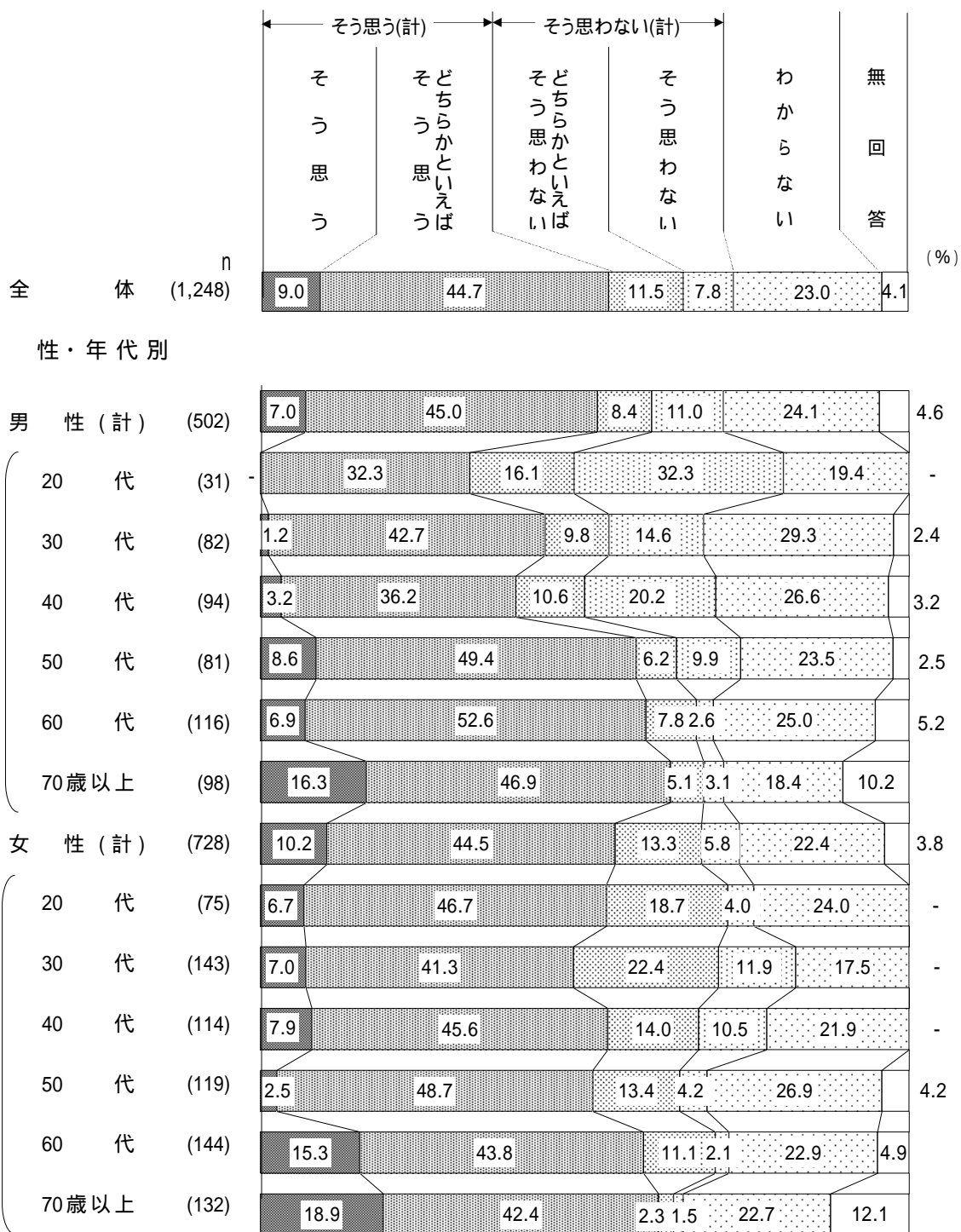


図 4 - 5 - 1 (2)景観・街並みが魅力的になってきている(性・年代別)

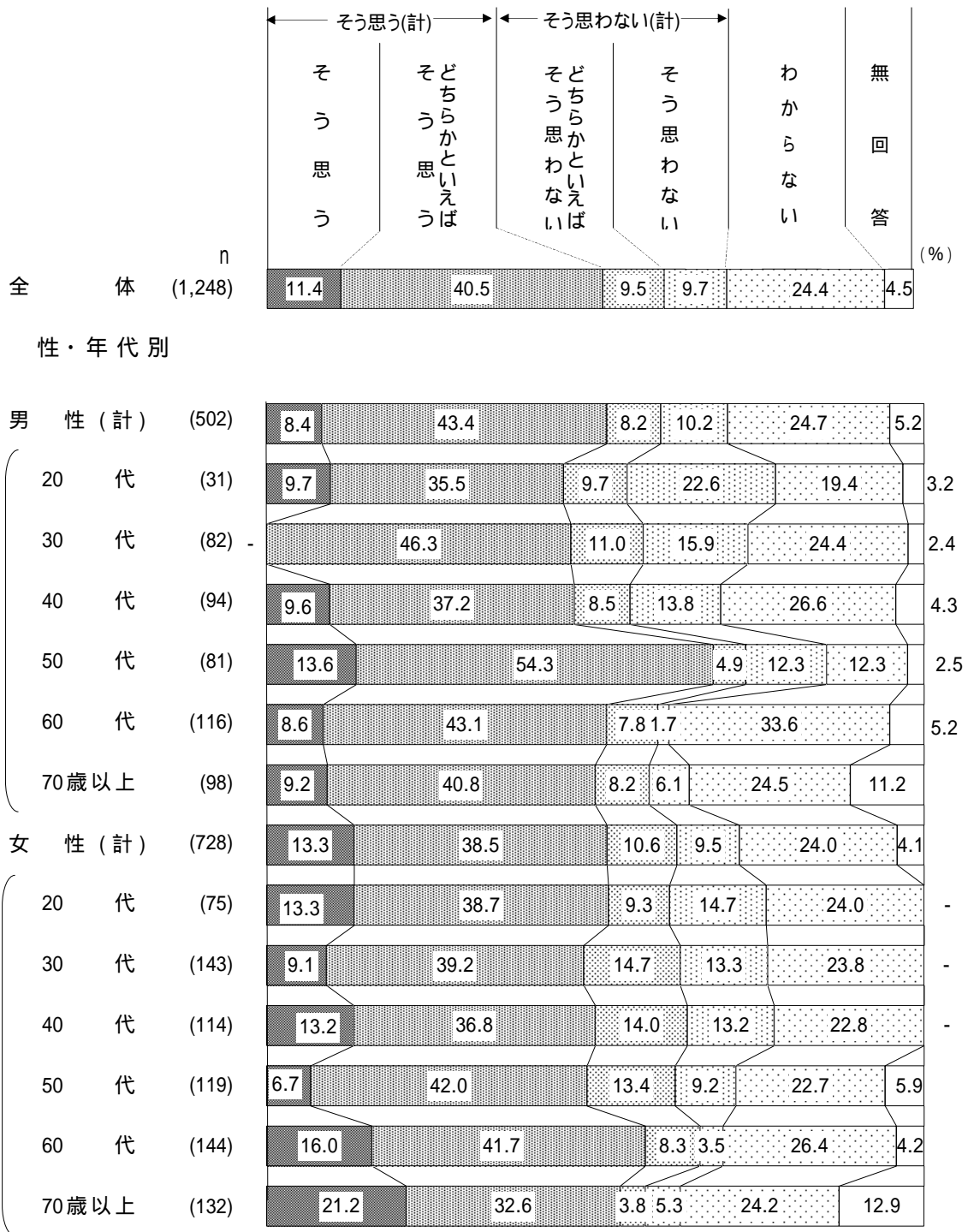


図 4 - 5 - 1 (3)区の情報を容易に知ることができる(性・年代別)

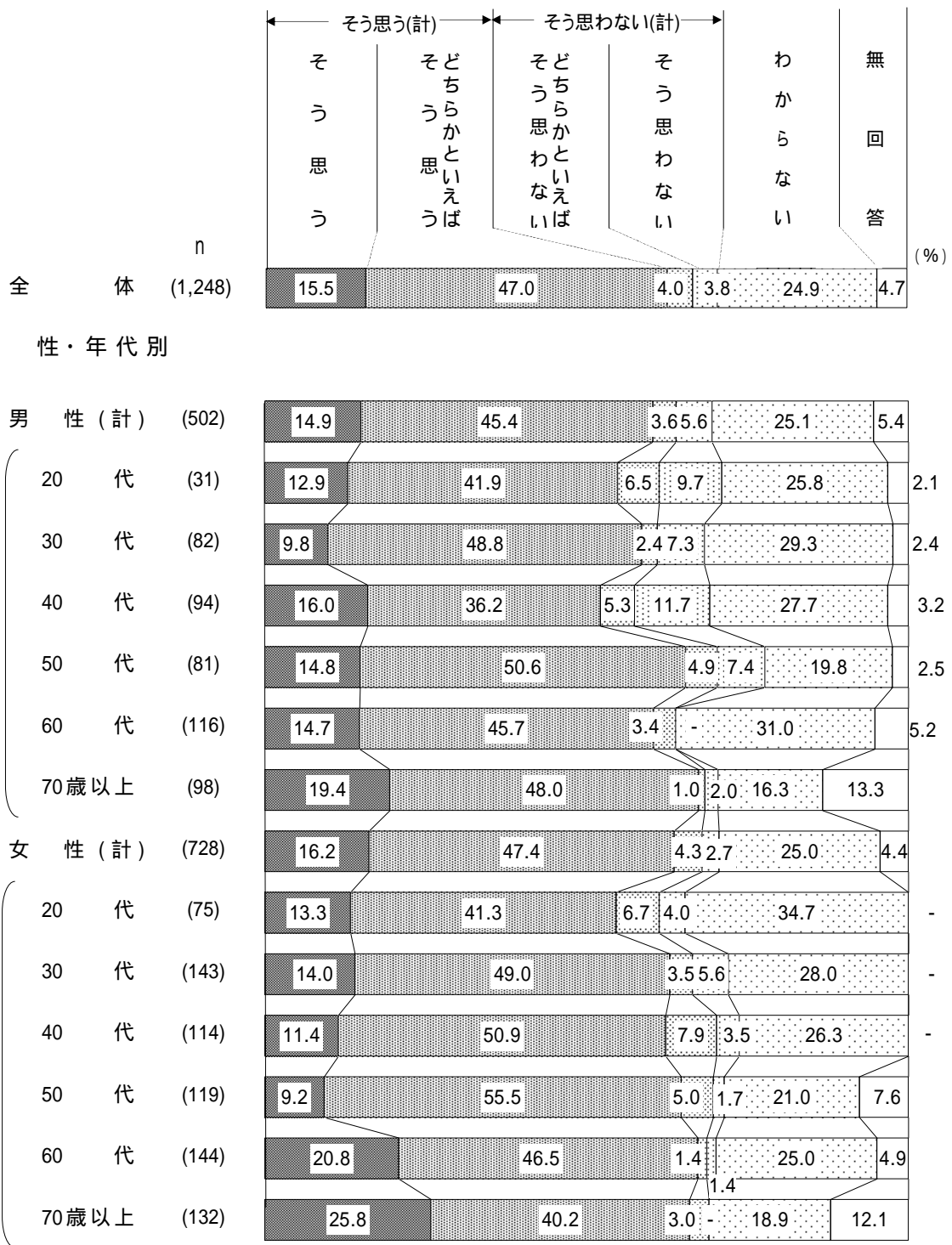
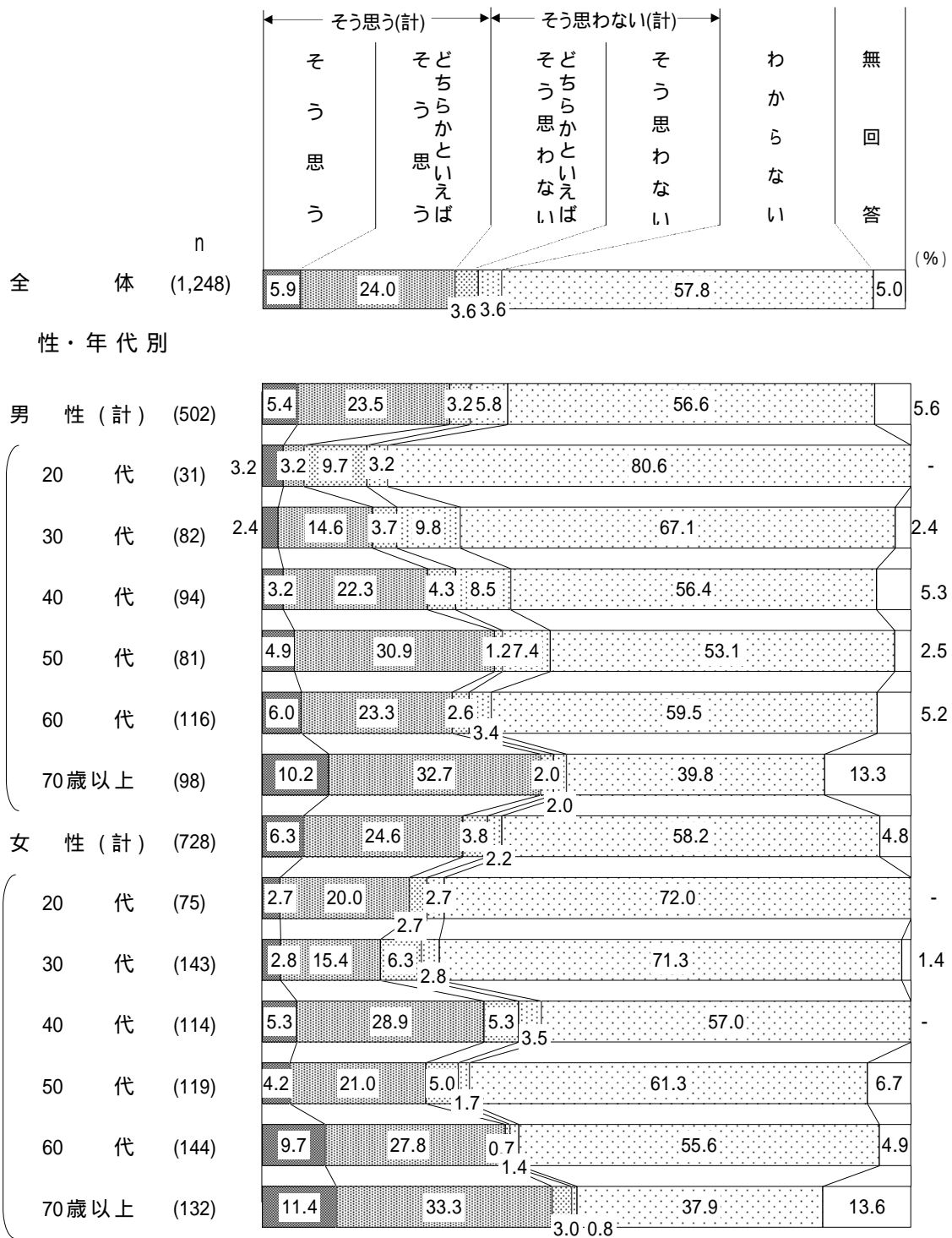
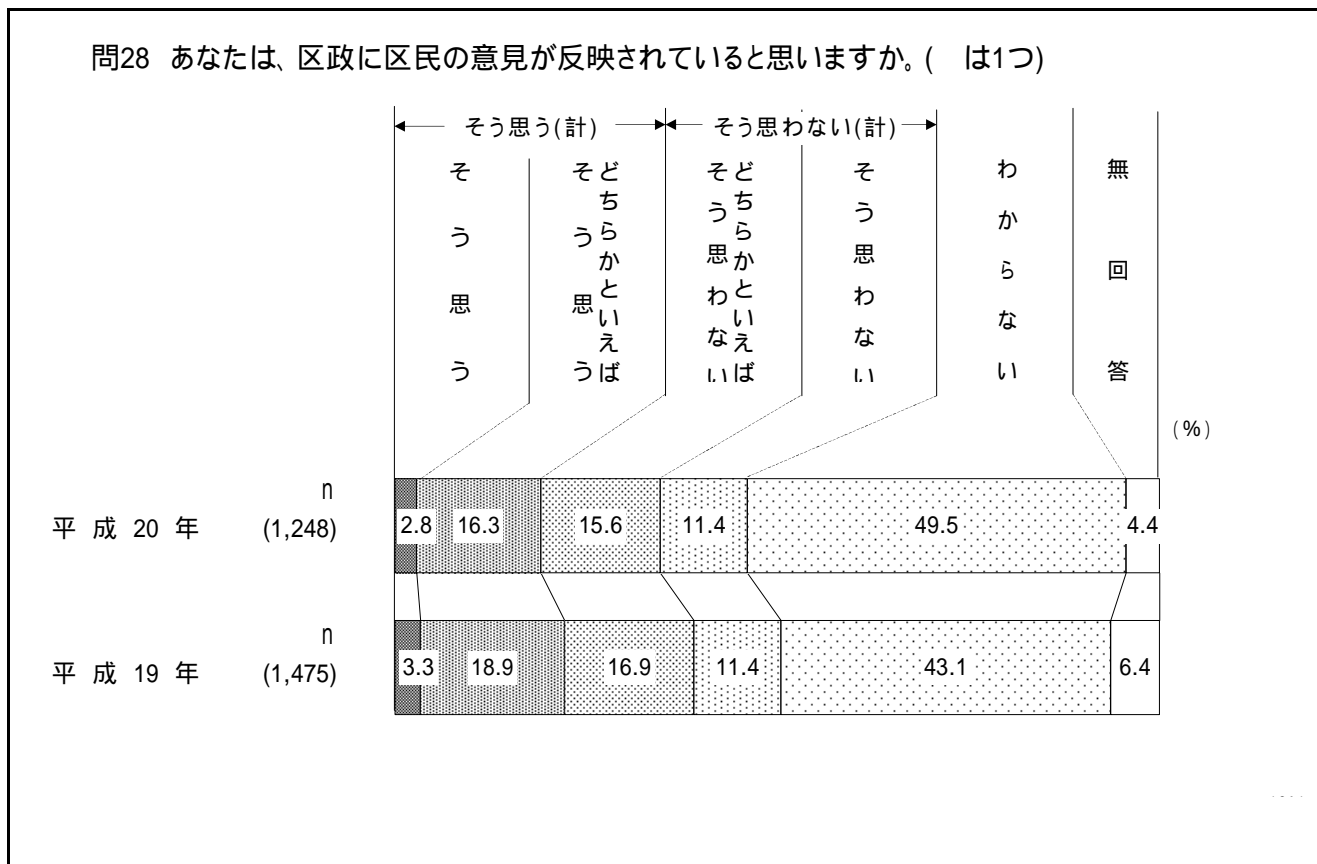


図 4 - 5 - 1 (4)区民・団体等と区役所が協働して事業を進めている(性・年代別)



(6) 区政への区民の意見の反映についての評価

区政への区民の意見の反映は《そう思う》が2割弱



区政への区民の意見の反映について聞いてみると、「そう思う」と回答した人が2.8%、「どちらかといえばそう思う」と回答した人が16.3%で、これらを合わせた《そう思う》は19.1%である。また「そう思わない」と回答した人の11.4%と「どちらかといえばそう思わない」と回答した人の15.6%を合わせた《そう思わない》は27.0%である。

平成19年と比較すると、《そう思う》は22.2%から19.1%へ3.1ポイント下降している。

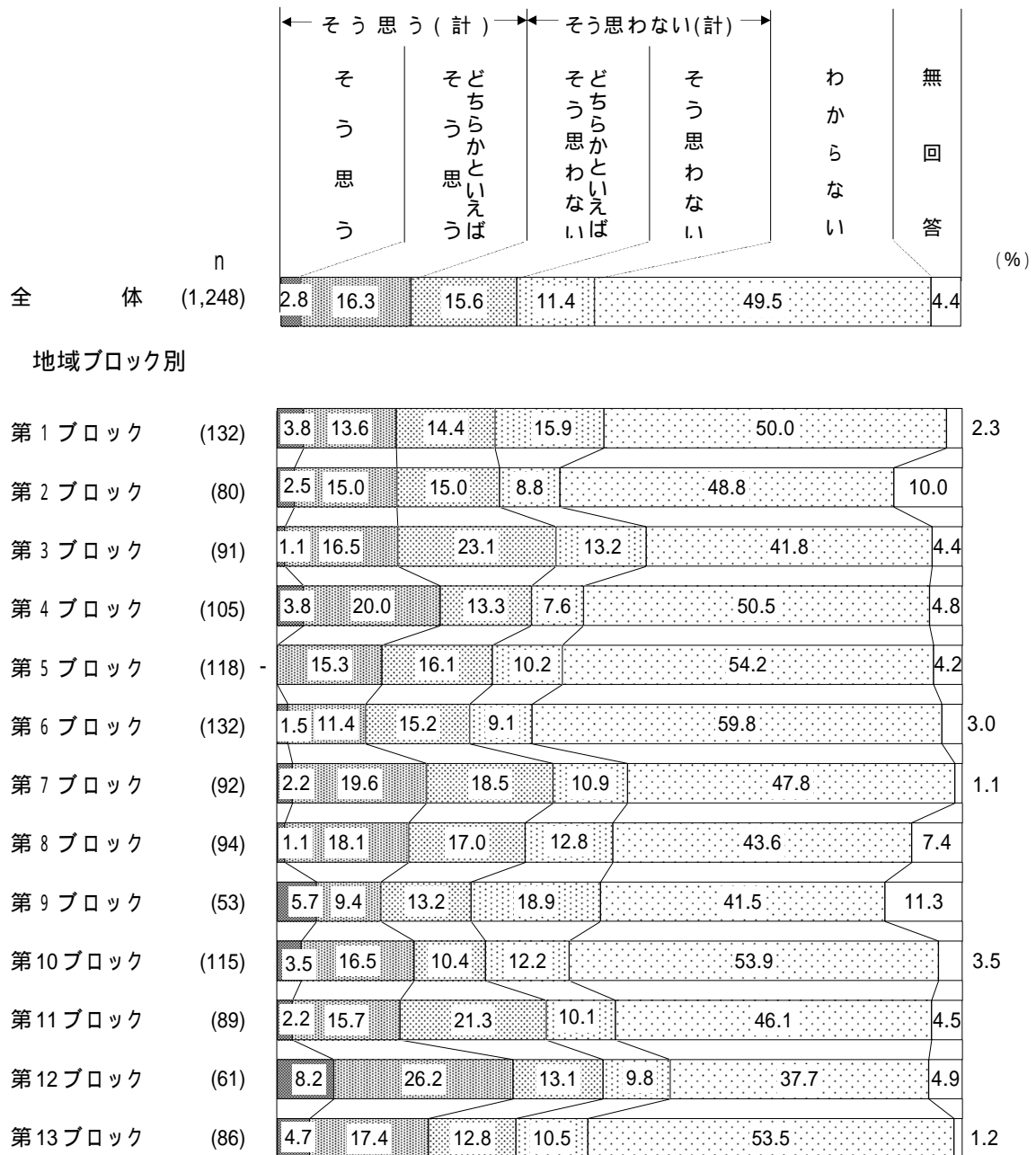
対して《そう思わない》も28.3%から27.0%へ1.3ポイント下降している。

一方で「わからない」と回答した人は49.5%で、平成19年と比較すると6.4ポイント上昇している。

地域ブロック別にみると、図4 - 6 - 1のとおりである。

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた〈そう思う〉は第12ブロックで30%以上と比較的高く、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた〈そう思わない〉は第1、第3、第9、第11ブロックで30%以上となっている。

図 4 - 6 - 1 区政への区民の意見の反映についての評価（地域ブロック別）



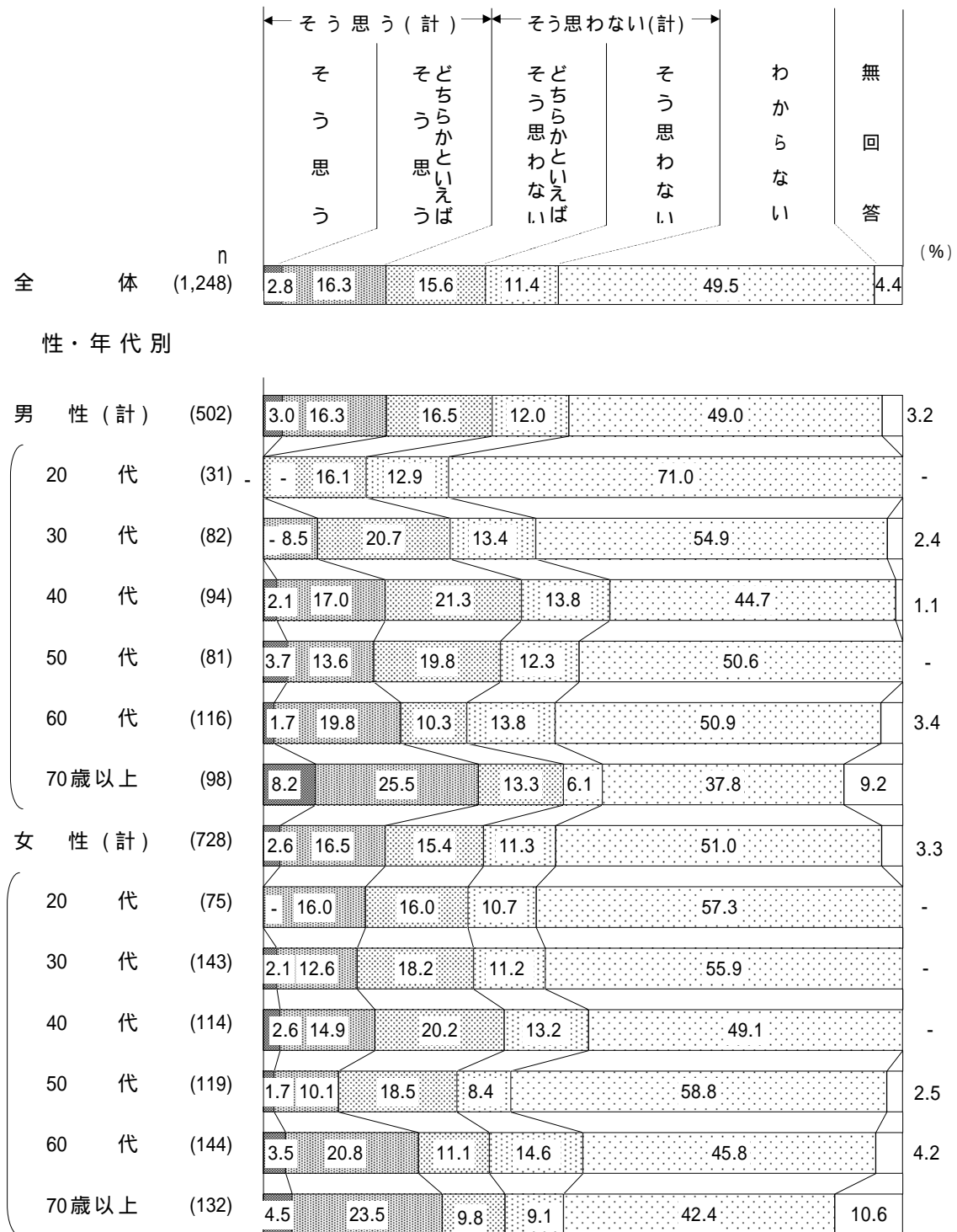
ブロック区分



性・年代別にみると、図4 - 6 - 2のとおりである。

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた〈そう思う〉は男性70歳以上で33.7%と最も高く、次いで女性70歳以上が28.0%となっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた〈そう思わない〉は男性40代で35.1%、男性30代で34.1%と3割以上となっている。

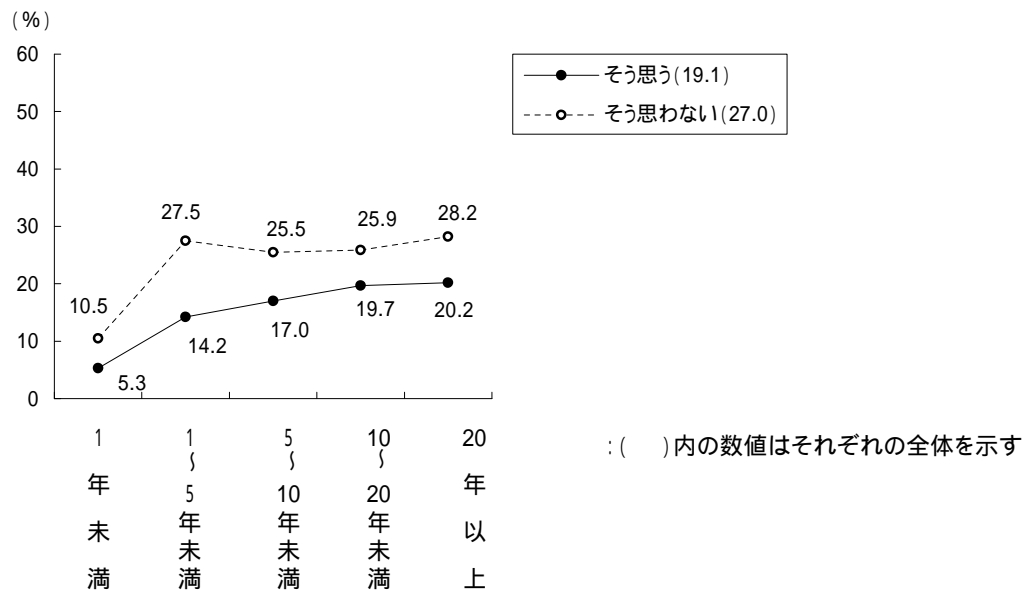
図 4 - 6 - 2 区政への区民の意見の反映についての評価（性・年代別）



居住年数別にみると、図4 - 6 - 3のとおりである。

《そう思わない》がすべての段階で《そう思う》を上回っており、特に「1～5年未満」で13.3ポイントの差があり顕著である。

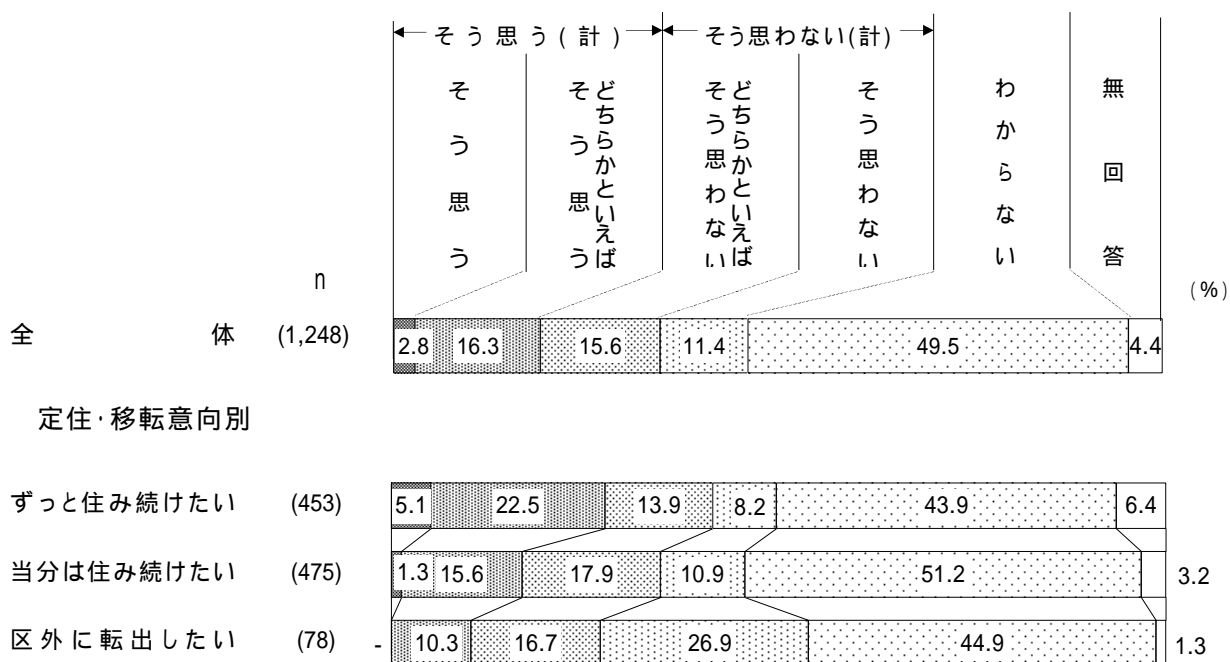
図 4 - 6 - 3 区政への区民の意見の反映についての評価（居住年数別）



定住・移転意向別にみると、図4 - 6 - 4のとおりである。

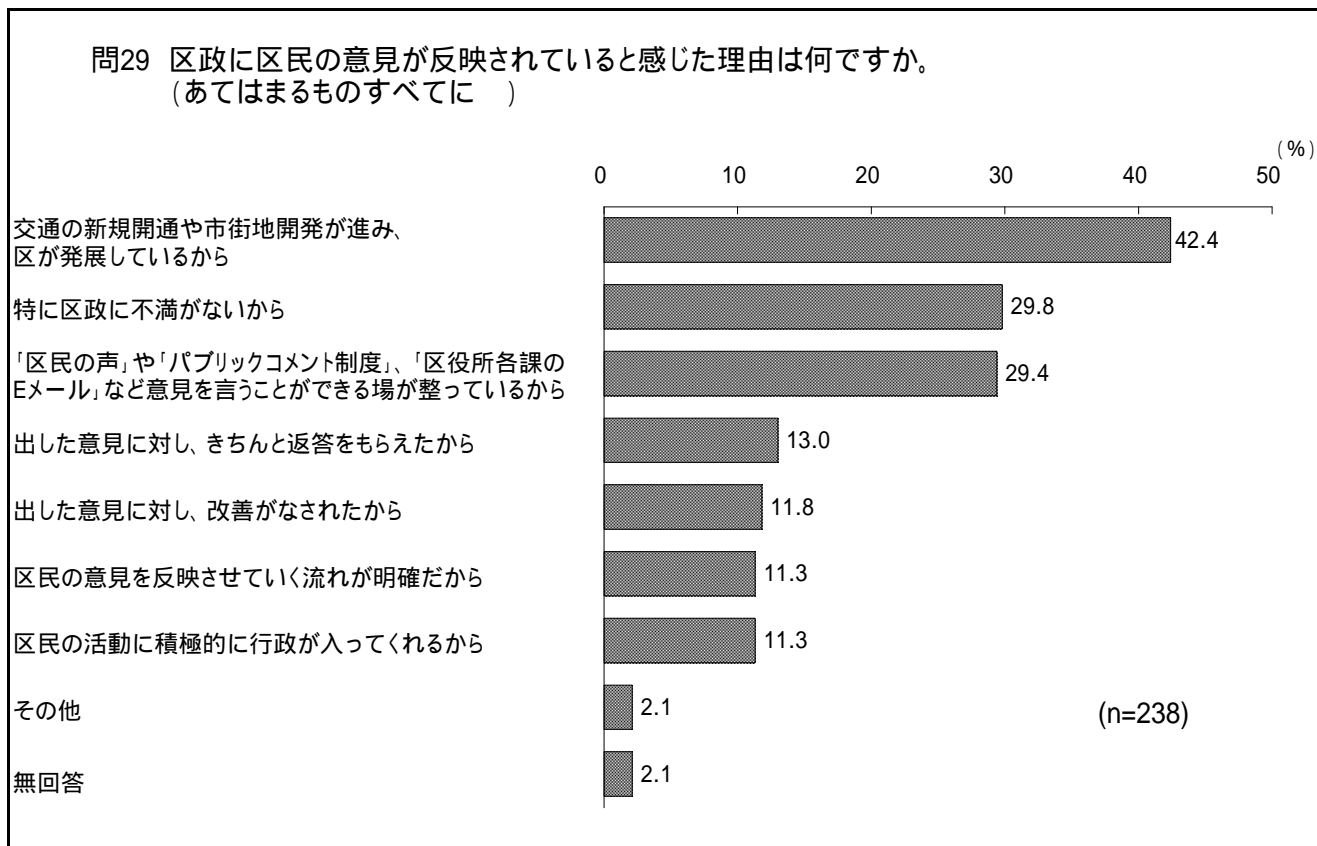
《そう思う》は「ずっと住みたい」人で27.6%と最も高い。定住意向が強いほど《そう思う》の割合が高くなっている。

図 4 - 6 - 4 区政への区民の意見の反映についての評価（定住・移転意向別）



(7) 区政に区民の意見が反映されていると感じた理由

「交通の新規開通や市街地開発が進み、区が発展しているから」が42.4%



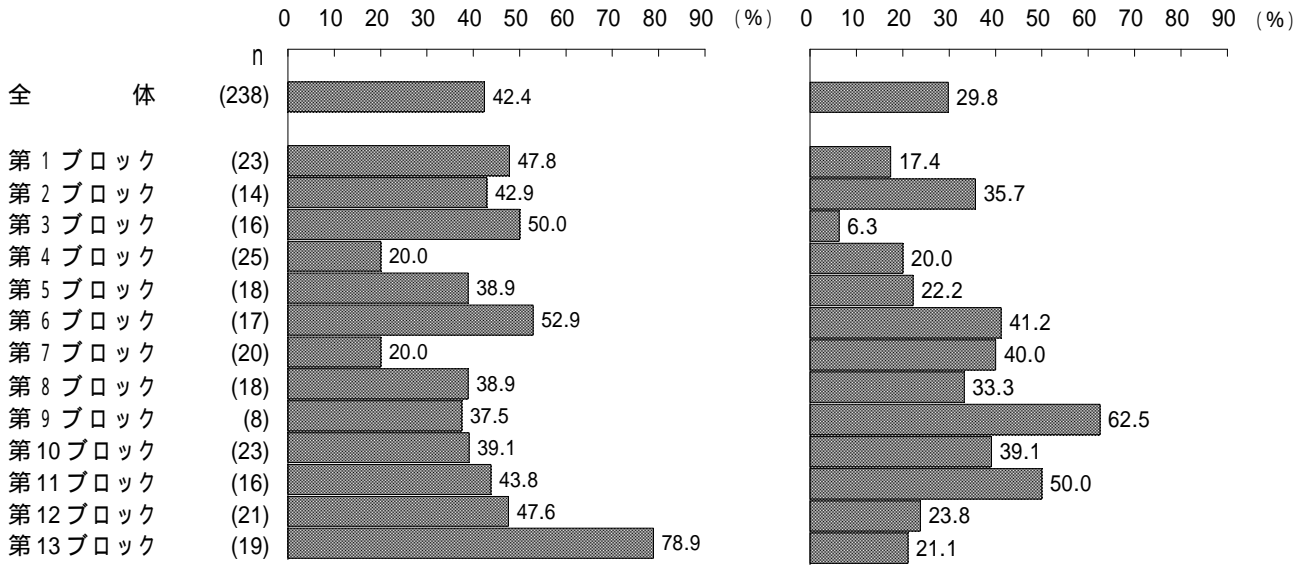
区政に区民の意見が反映されていると感じた理由については、「交通の新規開通や市街地開発が進み、区が発展しているから」が42.4%で最も多く、次いで「特に区政に不満がないから」(29.8%)、「『区民の声』や『パブリックコメント制度』、『区役所各課のEメール』など意見を言うことができる場が整っているから」(29.4%)となっている。

地域ブロック別にみると、図4 - 7 - 1のとおりである。「交通の新規開通や市街地開発が進み、区が発展しているから」では13ブロックが78.9%と最も高い。「特に区政に不満がないから」では第9ブロックで62.5%、第11ブロックで50.0%を示し5割を超えている。

図 4 - 7 - 1 区政に区民の意見が反映されていると感じた理由（地域ブロック別）

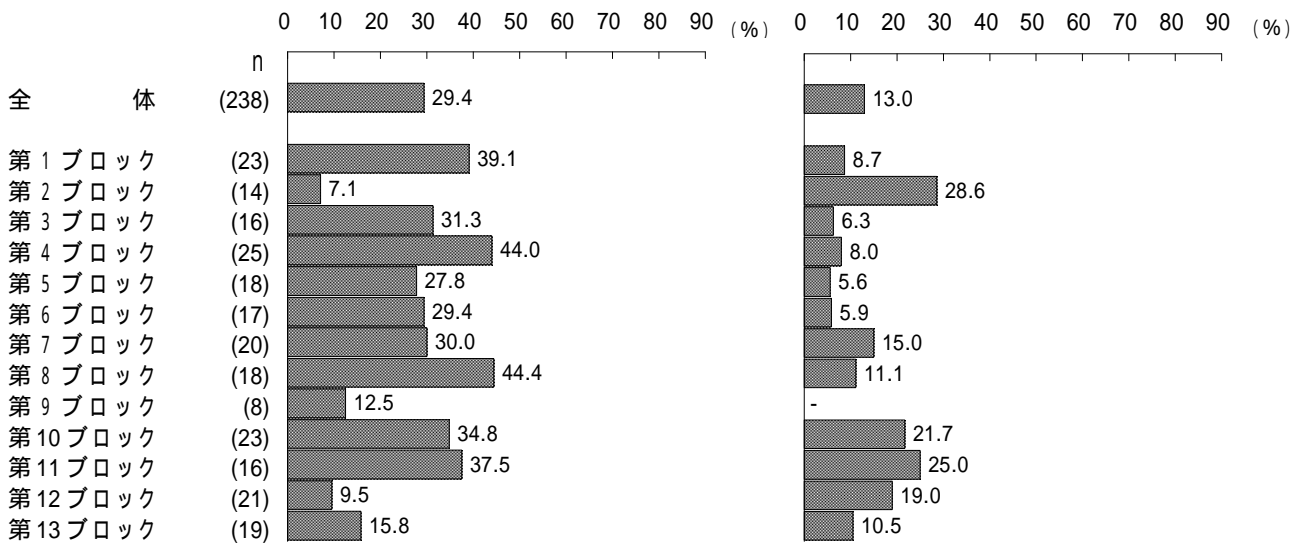
交通の新規開通や市街地開発が進み、
区が発展しているから

特に区政に不満がないから



「区民の声」や「パブリックコメント制度」、
「区役所各課のEメール」など意見を
言うことができる場が整っているから

出した意見に対し、
きちんと返答をもらえたから

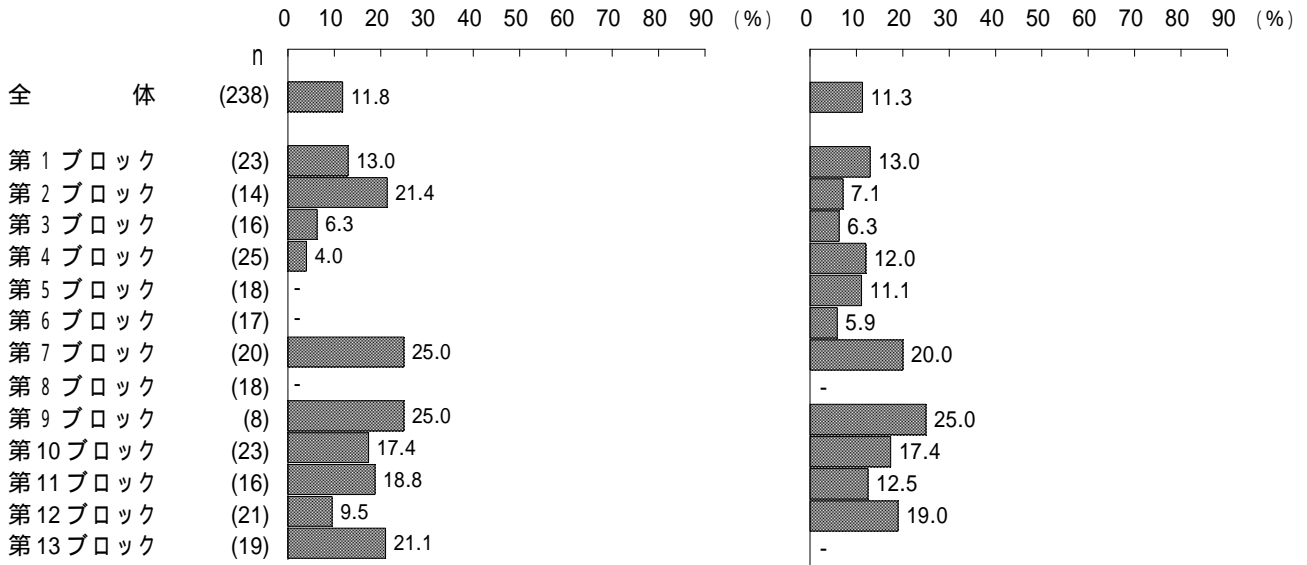


ブロック区分

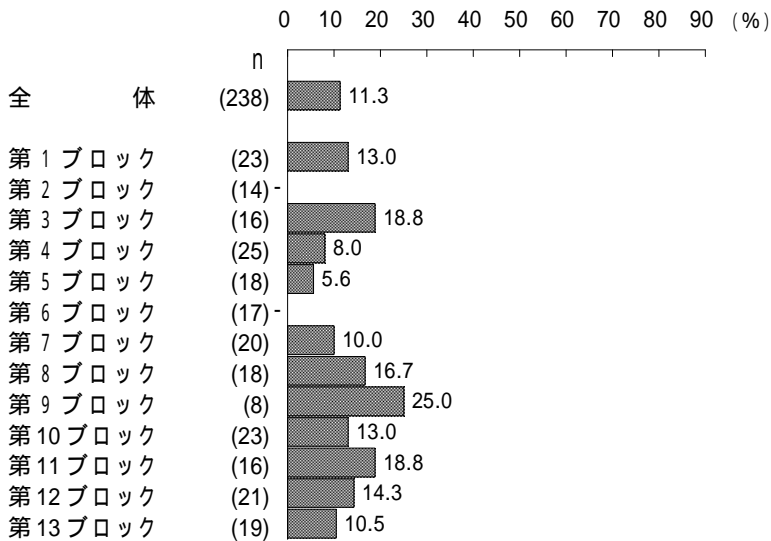


図 4 - 7 - 1 区政に区民の意見が反映されていると感じた理由 (地域ブロック別) - つづき -

出した意見に対し、改善がなされたから 区民の意見を反映させていく流れが明確だから



区民の活動に積極的に行政が入ってくれるから

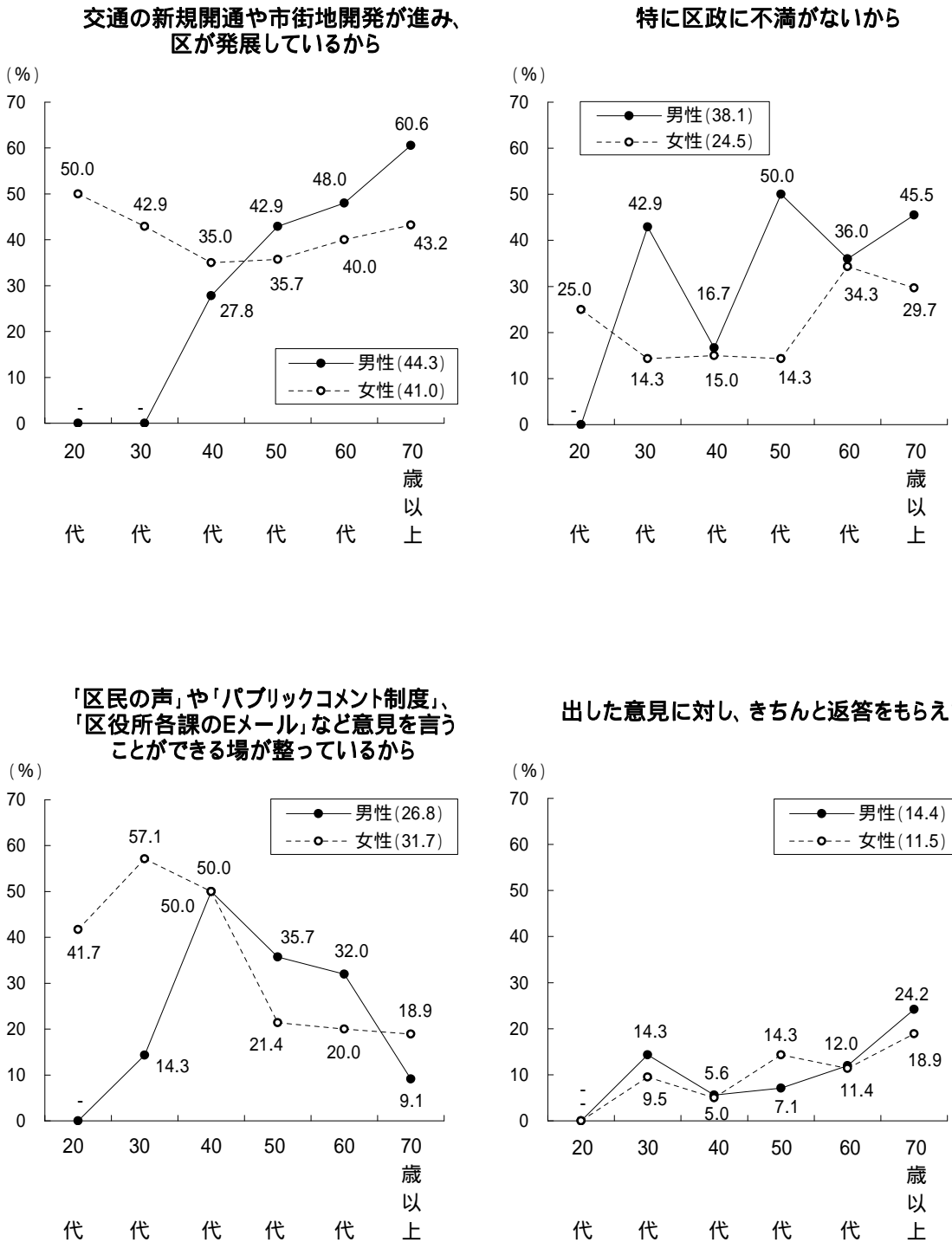


区民の意見が反映されていると思う理由を性・年代別にみると、図4 - 7 - 2のとおりである。

「交通の新規開通や市街地開発が進み、区が発展しているから」では、最も高いのは男性70歳以上(60.6%)で、男性については年代が上がるにつれ上昇している。

「『区民の声』や『パブリックコメント制度』、『区役所各課のEメール』など意見を言うことができる場が整っているから」では、男性は40代(50.0%)、女性は30代(57.1%)をピークに年代が上がるにつれ下降する傾向が見られる。

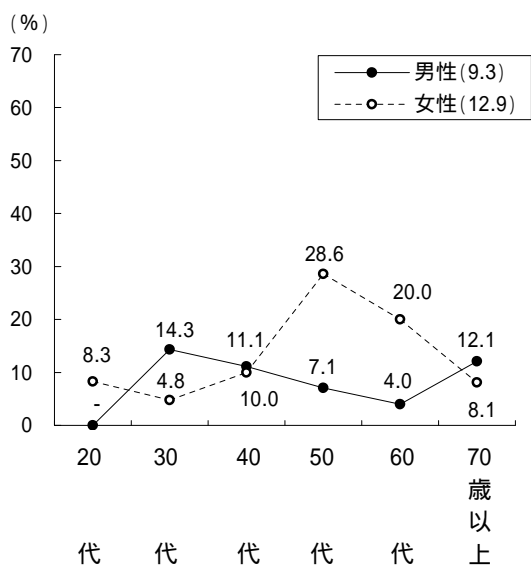
図 4 - 7 - 2 区民の意見が反映されていると思う理由 (性・年代別)



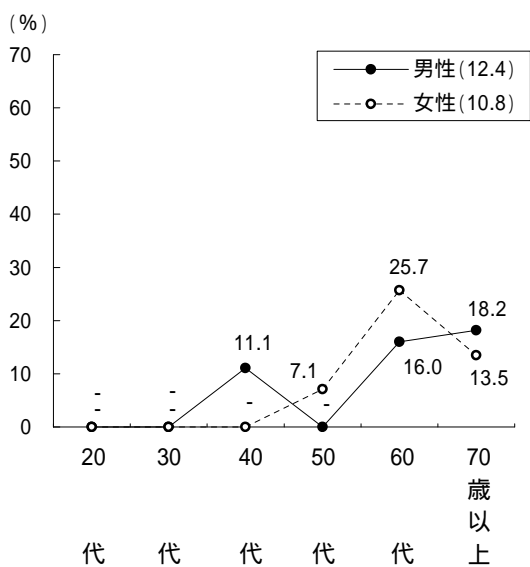
()内の数値は男女それぞれの全体を示す

図 4 - 7 - 2 区民の意見が反映されていると思う理由（性・年代別） - つづき -

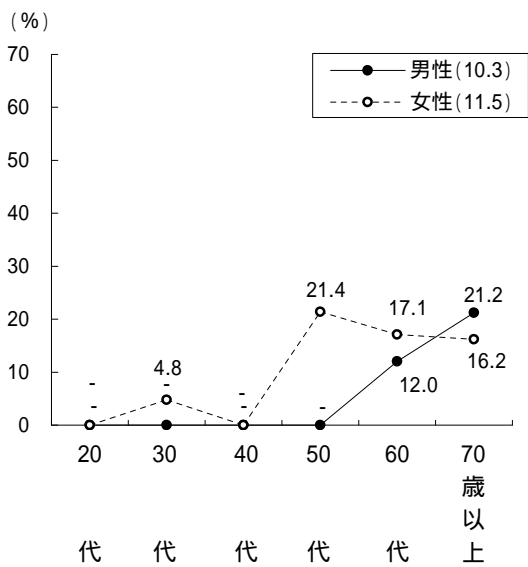
出した意見に対し、改善がなされたから



区民の意見を反映させていく流れが明確だから



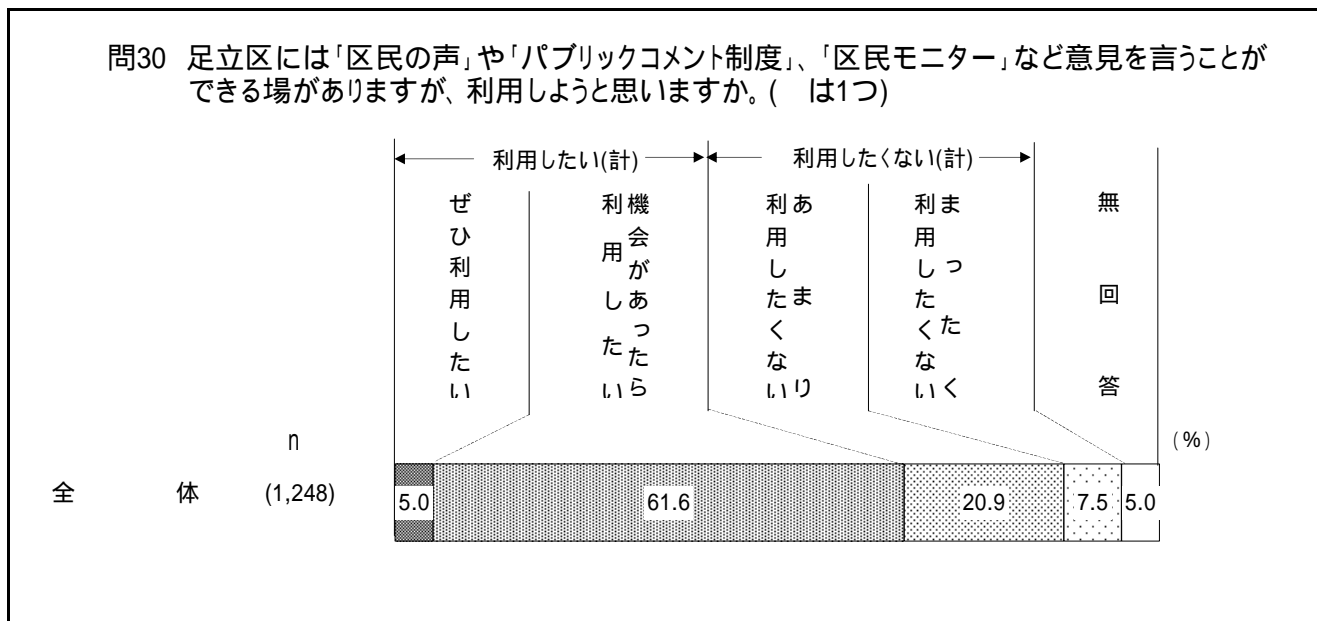
区民の活動に積極的に行政が入ってくれるから



：()内の数値は男女それぞれの全体を示す

(8) 区政へ意見を言うことができる場の利用

区政へ意見を言うことができる場を《利用したい》が66.6%

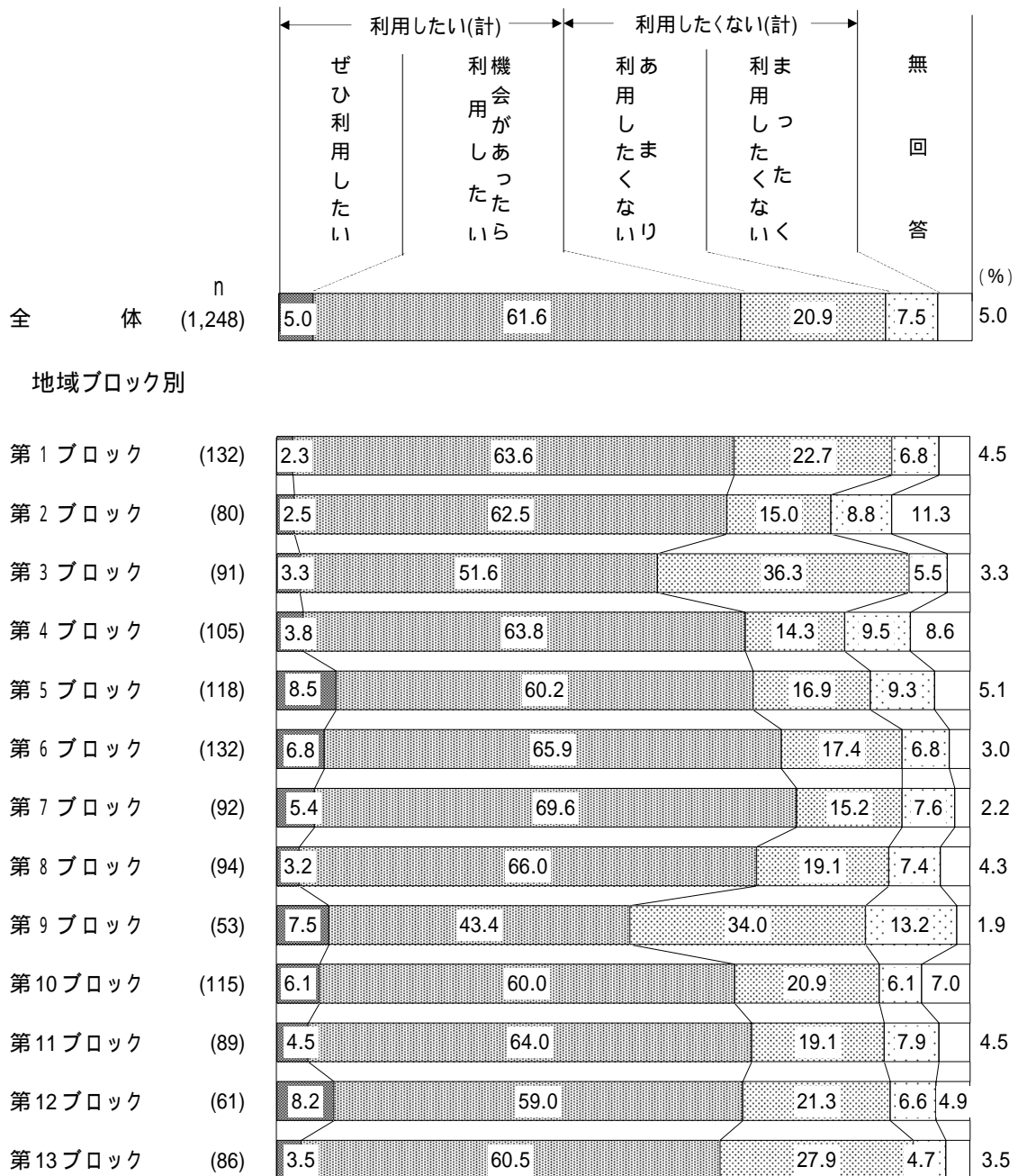


区政へ意見を言うことができる場について聞いてみると、「ぜひ利用したい」と回答した人が5.0%、「機会があったら利用したい」と回答した人が61.6%で、これらを合わせた《利用したい》は66.6%である。また、「まったく利用したくない」と回答した人の7.5%と「あまり利用したくない」と回答した人の20.9%を合わせた《利用したくない》は28.4%である。

地域ブロック別にみると、図4 - 8 - 1のとおりである。

《利用したい》ではいずれのブロックも50%を超えているが、中でも第7ブロックは75.0%と最も高い。対して、《利用したくない》では、第9ブロックの47.2%が最も高い。

図 4 - 8 - 1 区政へ意見を言うことができる場の利用（地域ブロック別）



ブロック区分

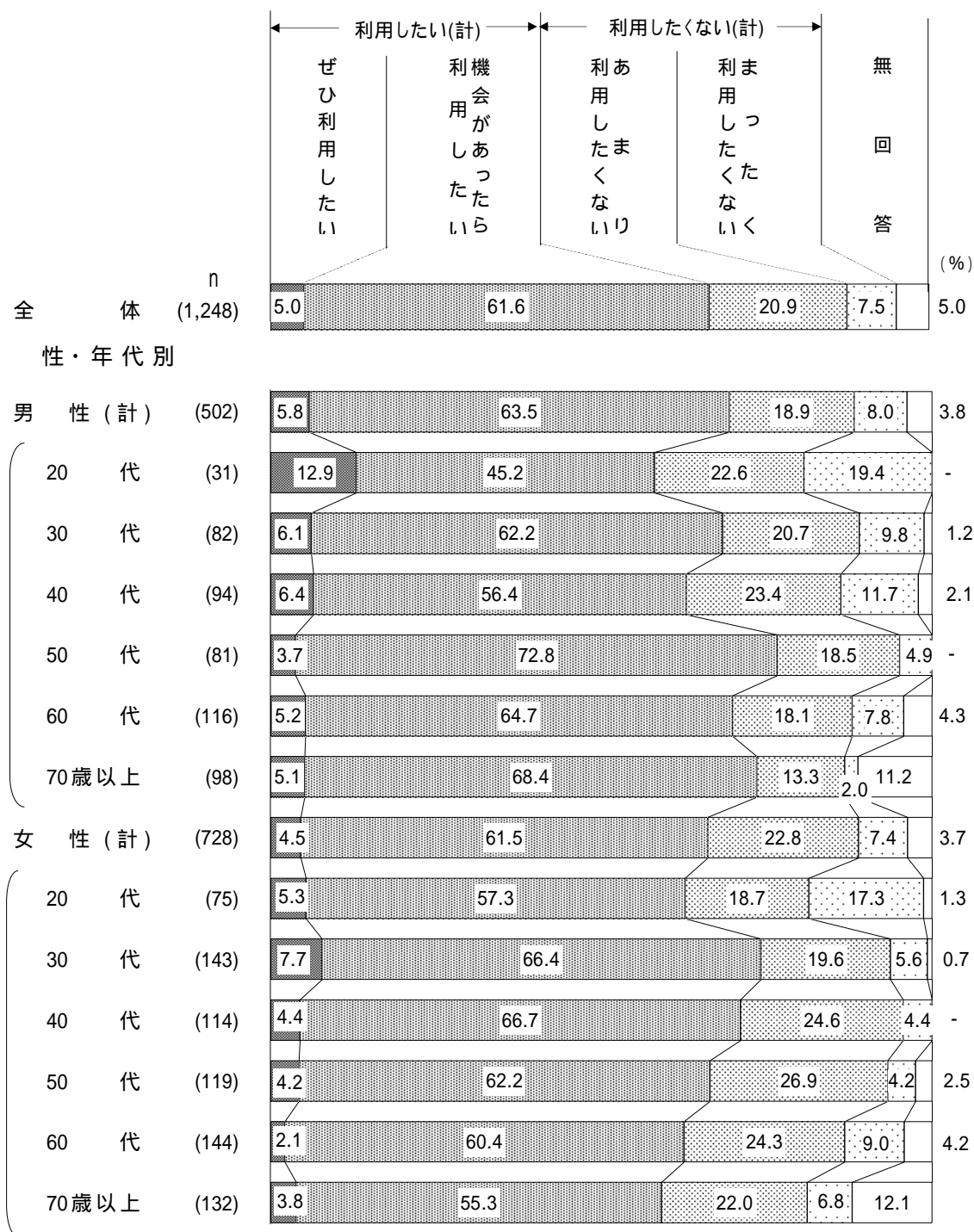


性・年代別にみると、図4 - 8 - 2のとおりである。

「ぜひ利用したい」と回答した人は男性20代が最も高く12.9%を示している反面、「あまり利用したくない」と回答した人と「利用したくない」と回答した人を合わせた（利用したくない）についても男性20代が41.9%と最も高い。

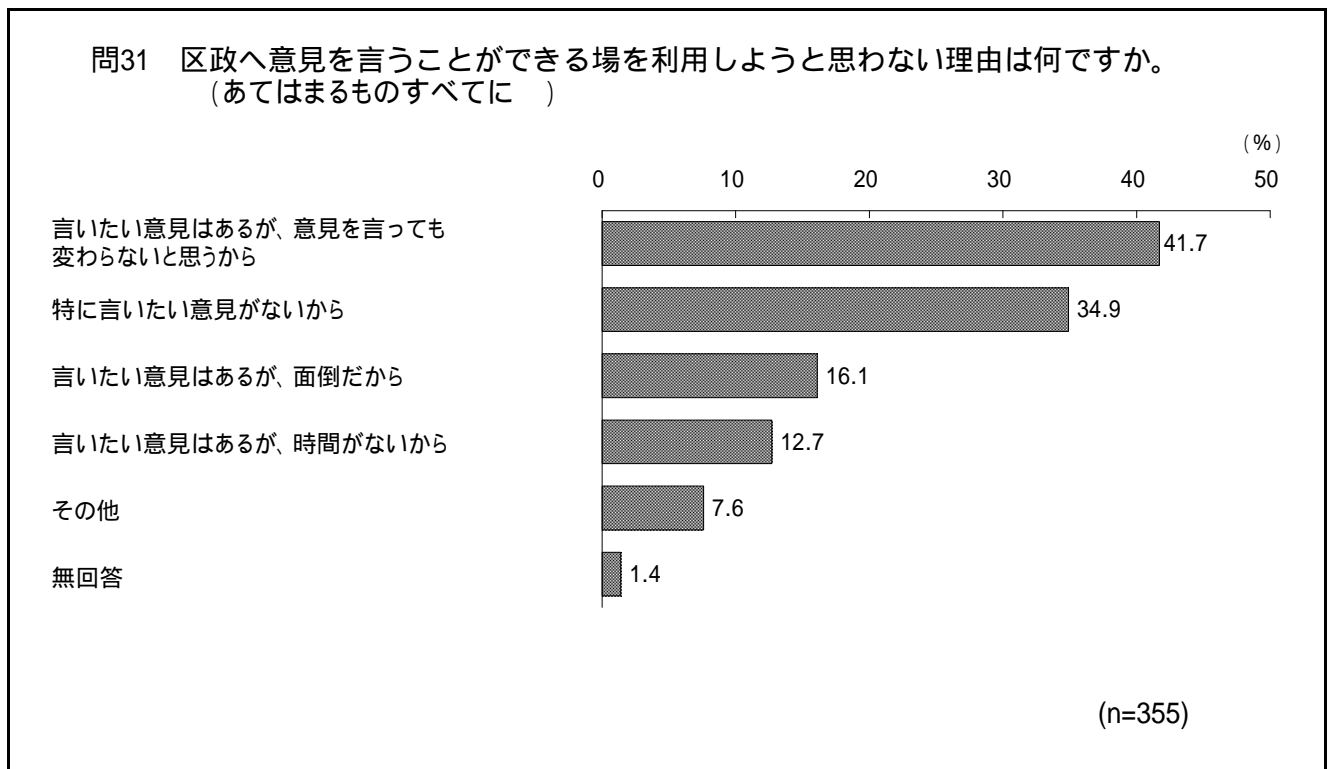
（利用したい）が7割を超えている年代は男性50代が最も高く（76.5%）、次いで男性70歳以上（73.5%）、女性30代（74.1%）、女性40代（71.1%）で、女性は年代が上がるにつれ（利用したい）の割合が下降する傾向がみられる。

図 4 - 8 - 2 区政へ意見を言うことができる場の利用（性・年代別）



(9) 区政へ意見を言うことができる場を利用しようと思わない理由

理由は「言いたい意見はあるが、意見を言っても変わらないと思うから」が4割以上

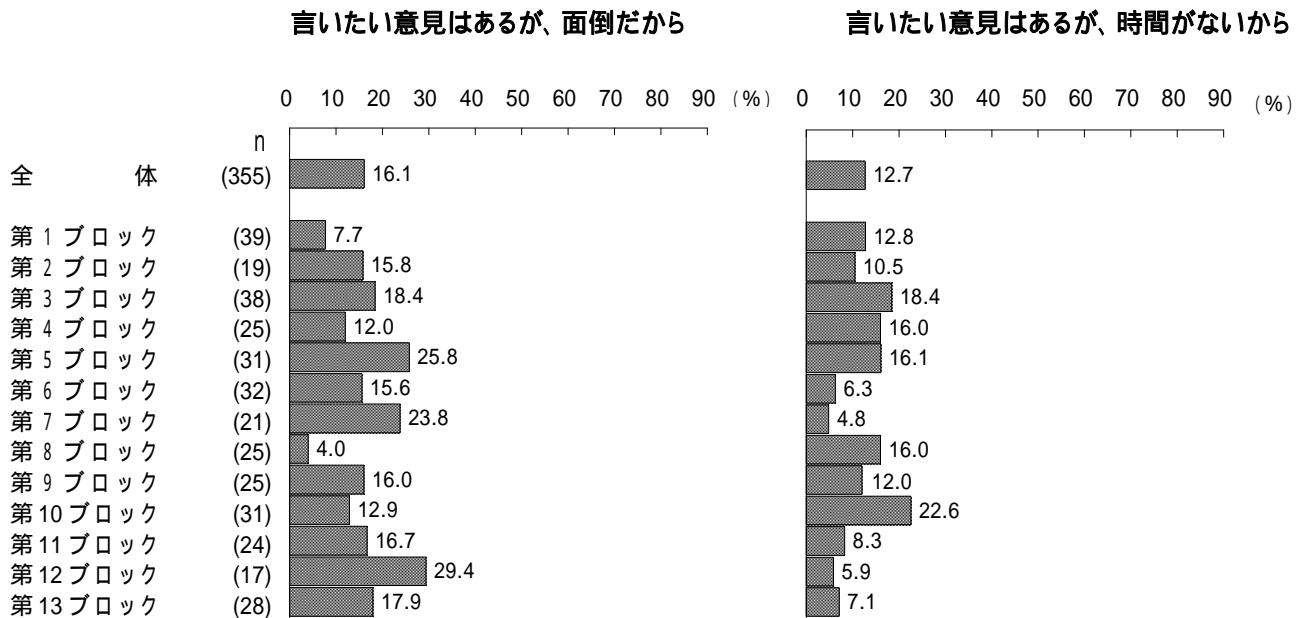
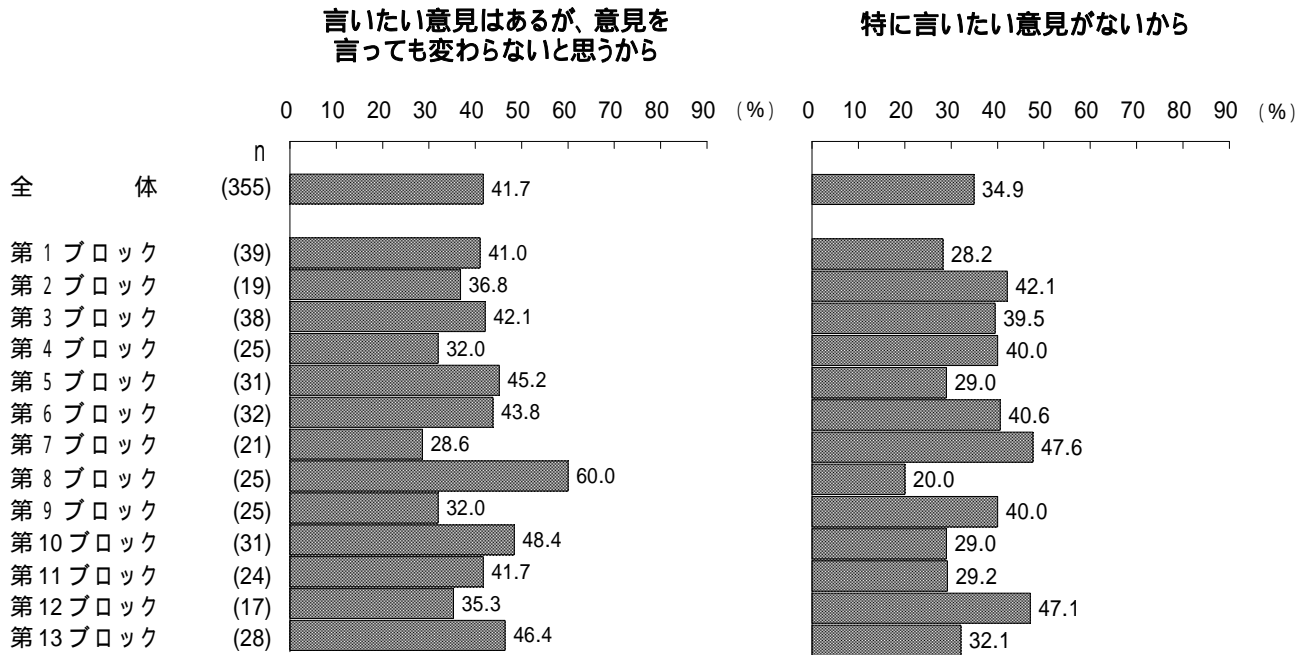


区政へ意見を言うことができる場を利用しようと思わない理由を聞いたところ、41.7%の人が「言いたい意見はあるが、意見を言っても変わらないと思うから」と回答している。次いで、「特に言いたい意見がないから」が34.9%で、「言いたい意見はあるが、面倒だから」が16.1%を示している。

地域ブロック別にみると、図4 - 9 - 1のとおりである。

「言いたい意見はあるが、意見を言っても変わらないと思うから」では、第8ブロックが60.0%と最も高く、「特に言いたい意見がないから」では第7ブロックと第12ブロックがそれぞれ47.6%と47.1%で45.0%以上を示している。

図 4 - 9 - 1 区政へ意見を言うことができる場を利用しようと思わない理由（地域ブロック別）

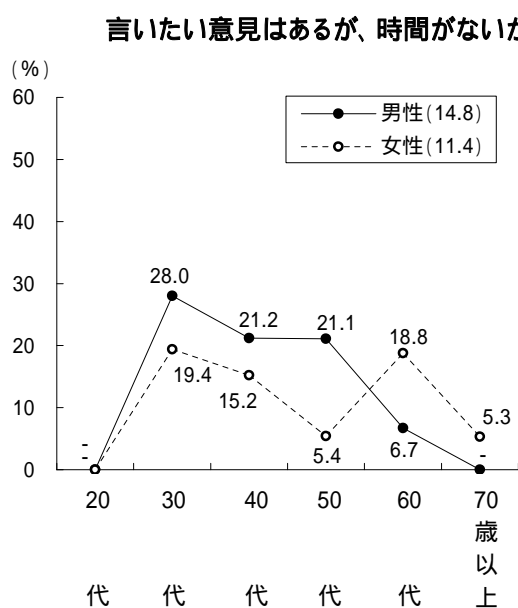
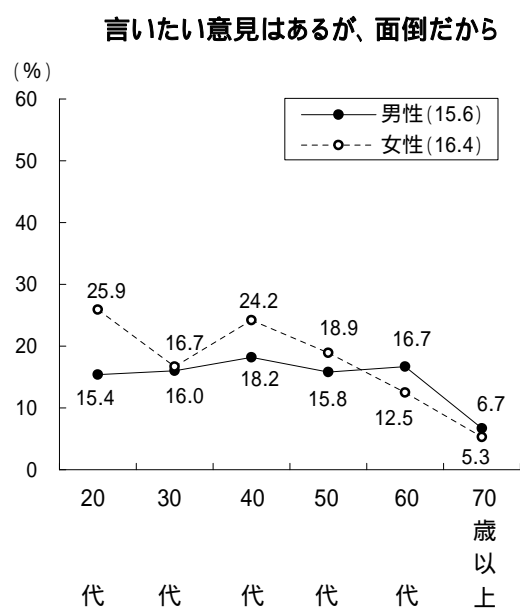
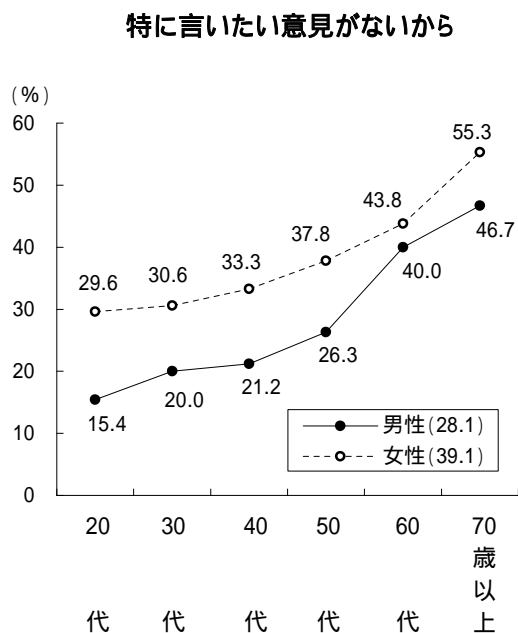
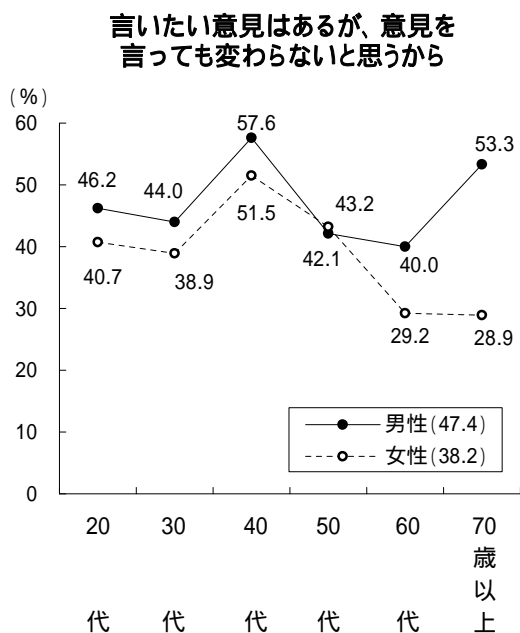


性・年代別にみると、図4 - 9 - 2のとおりである。

「言いたい意見はあるが、意見を言っても変わらないと思うから」では、男性が全体的に女性よりも高く、60代、70歳以上でその差が顕著に表れている。

「特に言いたい意見がないから」では、全体的に女性の方が男性よりも高く、男女共に年代が上がるにつれ割合が上昇し、女性70歳以上が55.3%と最も高い。

図 4 - 9 - 2 区政へ意見を言うことができる場を利用しようと思わない理由（性・年代別）

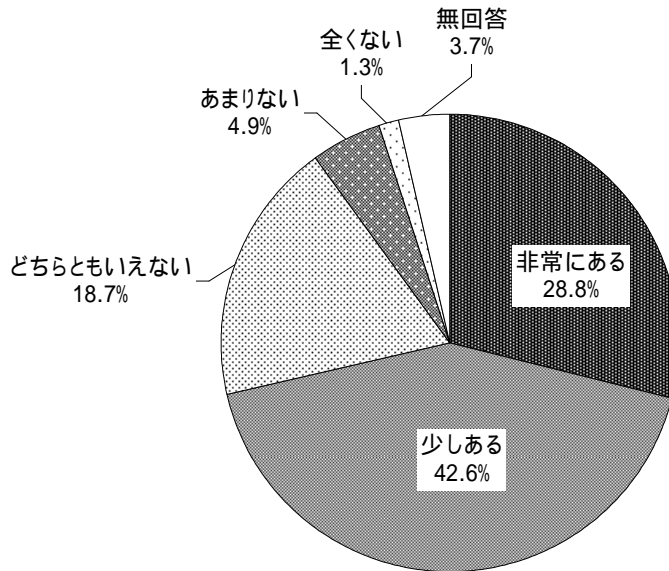


：()内の数値は男女それぞれの全体を示す

(10) 人権についての関心

「人権への関心がある」は7割

問32 あなたは、人権について関心がありますか。(は1つ)



(n=1,248)

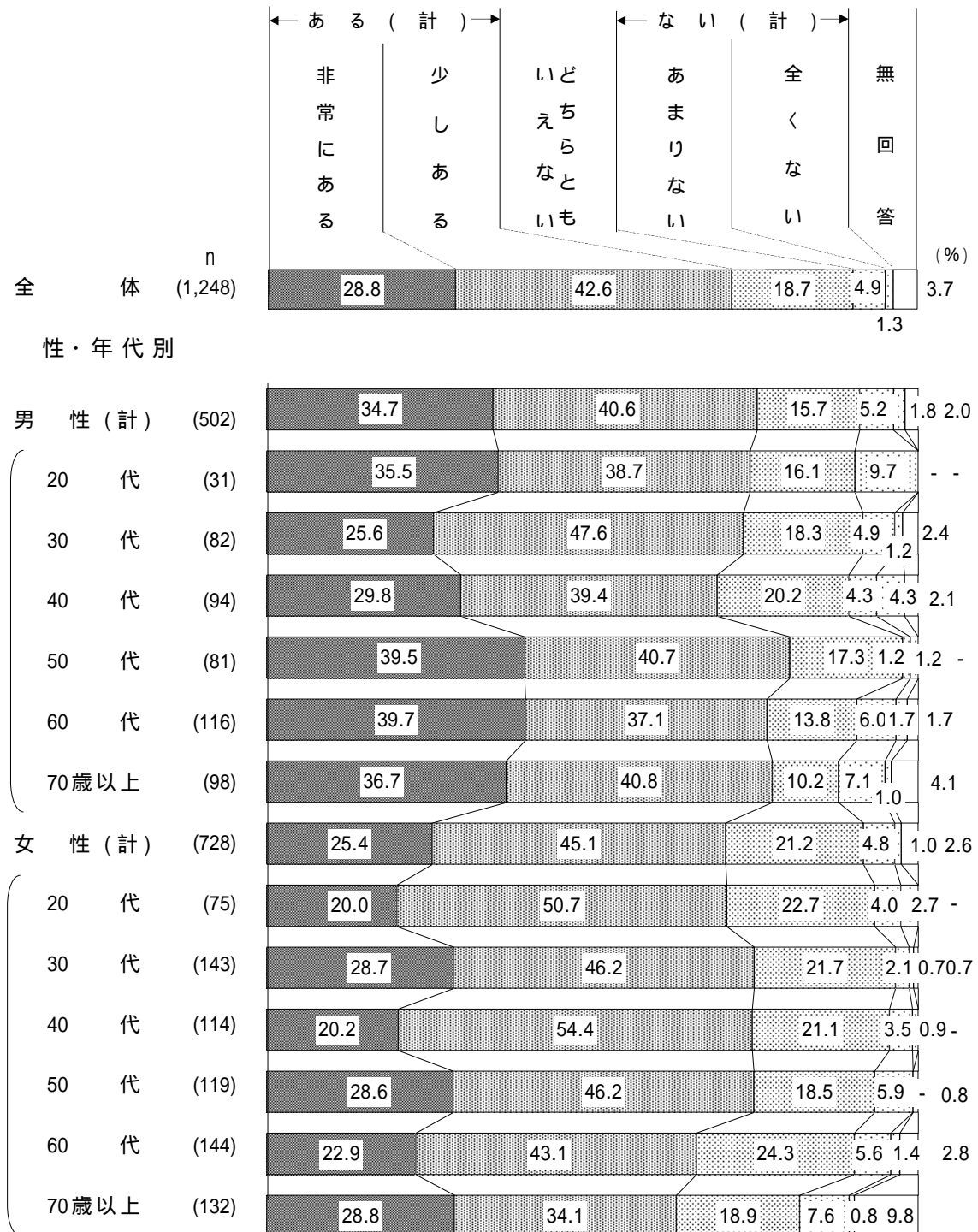
人権について関心があるか聞くと、「非常に関心がある」と回答した人は28.8%であり、「少しある」と回答した人の42.6%を合わせた《関心がある》は全体の71.5%を占めている。

一方、「全くない」と回答した人(1.3%)と「あまりない」と回答した人の4.9%を合わせた《関心がない》は6.2%である。

性・年代別にみると、図4 - 10 - 1のとおりである。

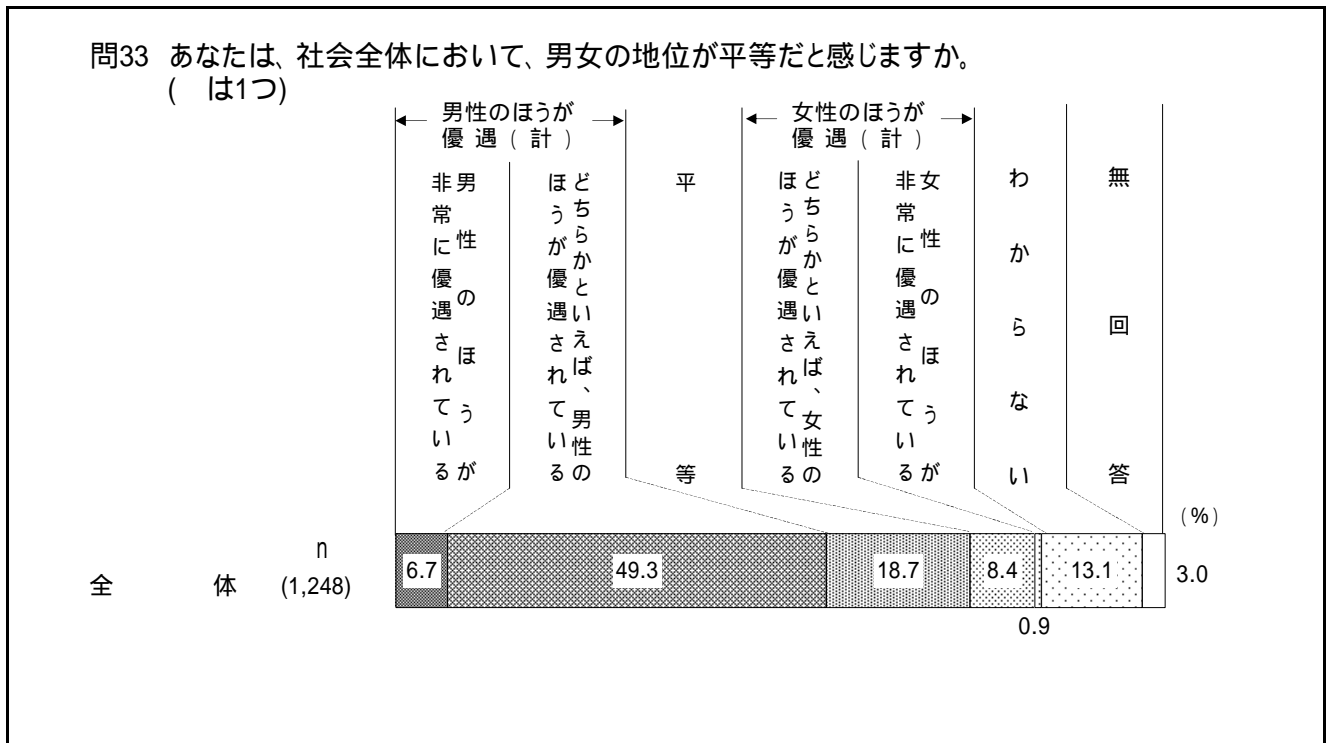
《関心がある》は男性50代で80.2%と最も高く、次いで男性70歳以上(77.6%)、60代(76.7%)の順になっている。

図 4 - 10 - 1 人権についての関心(性・年代別)



(11) 男女の地位の平等観

「男性のほうが優遇」が55.9%を占める



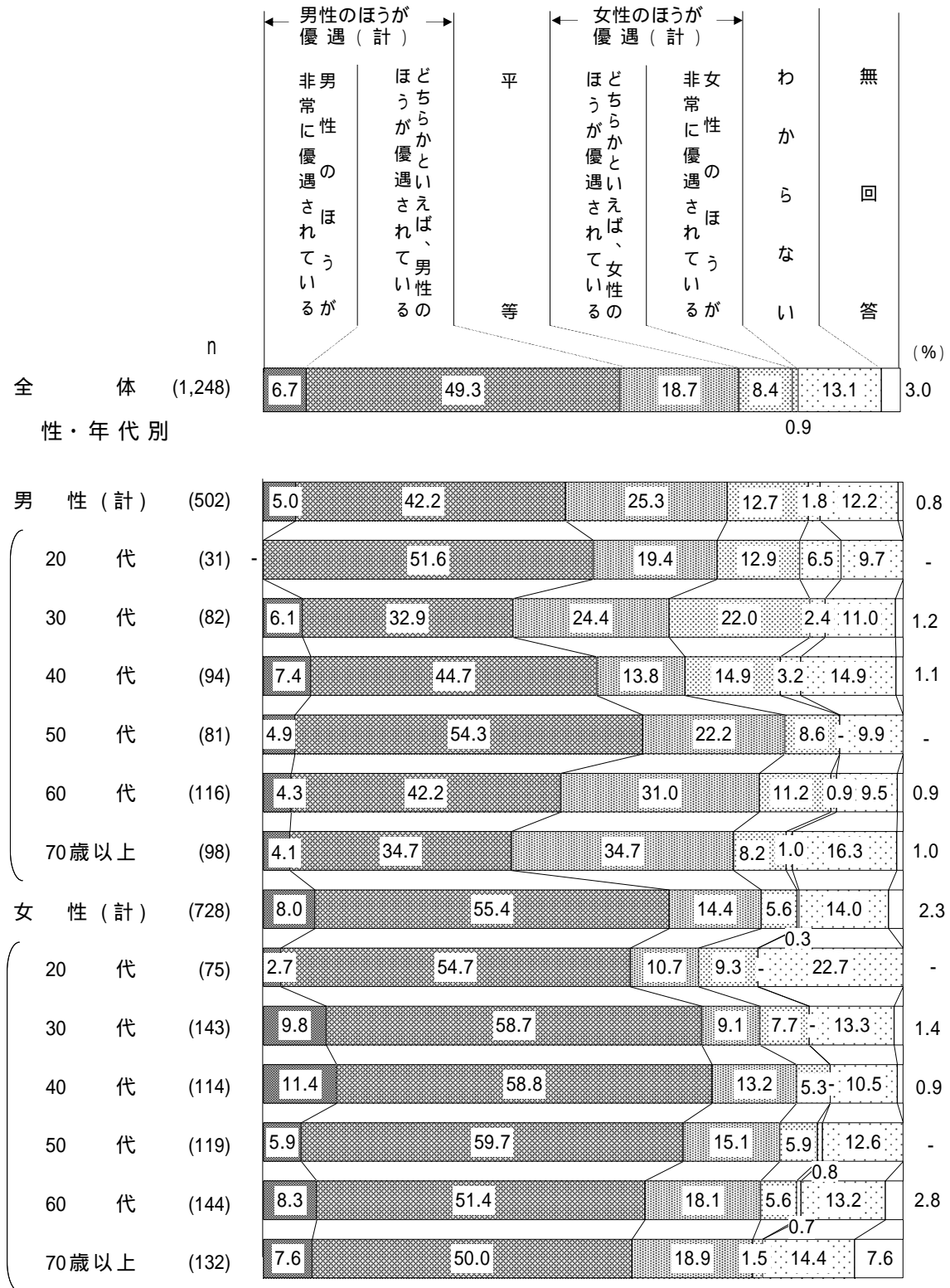
男女の地位が平等かを聞いてみると、「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば、男性のほうが優遇されている」と回答した人を合わせた《男性のほうが優遇》が55.9%を占める一方で、「女性のが非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性のほうが優遇されている」と回答した人を合わせた《女性のほうが優遇》は9.3%にすぎない。一方、「平等」も18.7%にとどまっている。

性・年代別にみると、図4 - 11 - 1のとおりである。

《男性の方が優遇》は全体的に女性の方が男性よりも高く、女性のすべての年代で55%を超えている。

また《女性の方が優遇》は男性30代の24.4%が最も高く、女性はすべての年代で10%以下である。

図 4 - 11 - 1 男女の地位の平等観(性・年代別)



職業別にみると、図4 - 11 - 2のとおりである。

《男性の方が優遇》は自由業(75.0%)、事務職(63.2%)、主婦専業(61.6%)、役員・管理職(60.0%)で60%以上を示している。

図 4 - 11 - 2 男女の地位の平等観(職業別)

